

目 次

I. 調査団派遣の概要

1. 派遣の経緯と目的 1
2. 調査団員の構成 1
3. 調査日程 2
4. 調査方法と内容 3
5. 主要訪問先及び面談者 3

II. 調査結果

1. フィリピンにおける地域振興政策の実施状況及び課題 6
2. 帰国研修員による研修成果の適用状況及び課題 11
3. クラスタ開発政策関係者に対する一村一品運動の理解促進 .. 24

III. 調査総括及び課題・提言

1. 調査結果の総括 26
2. 研修コースへの提言 27

IV. 現地セミナー報告書

V. 平成13年度アセアン地域特設「一村一品運動セミナー」研修計画

VI. 平成13年度フィリピン国別特設「地方自治クラスター活性化セミナー： 一村一品運動」研修計画

I 調査団派遣の概要

1. 派遣の経緯と目的

フィリピンでは 1991 年に地方分権法が制定され、地方への権限委譲が進むとともに、各自治体が地域開発の主体となりつつあるが、その行政能力や財政基盤は依然として脆弱である。

このような背景の下、国際協力事業団（JICA）は、フィリピン国内の事業として、地方自治を管轄する内務地方自治省（DILG）への専門家派遣や、プロジェクト方式技術協力「セブ州地方部活性化プロジェクト（セブ SEED）」等を通じた地方行政官の人材育成支援を行ってきた。

一方、本邦においては、大分県に代表される日本の地域振興政策を伝える目的で、平成 10 年度から開始された「地域振興行政セミナー：一村一品運動」（13 年度より「一村一品運動セミナー」へ名称変更）へ、内務地方自治省の行政官や他の関係機関職員、セブ SEED のカウンターパートを受け入れてきた。

また同時に、同コースとは別に国別特設として州知事や町長等の行政首長を対象とした「フィリピン一村一品運動セミナー」も 11・12 年度と各年とも単発で実施された。両コースにおけるフィリピン研修員の受入実績は、12 年度までの 3 年間で 22 名に及ぶ。

さらに、13 年度からは、DILG が JICA 専門家とともに進めているクラスター開発政策を支援する観点から、町長を対象とした「地方自治クラスター活性化セミナー：一村一品運動」が新たに開設されることとなった。

これらの動きを受け、以下の目的により、本調査団が派遣された。

- ①国別特設「地方自治クラスター活性化セミナー」の計画策定段階における現地ニーズの把握、関係機関との連携強化。
- ②「地域振興行政セミナー：一村一品運動」（13 年度から「一村一品運動セミナー」）の研修効果測定、研修計画へのフィードバック。
- ③クラスター開発政策担当者及び対象者に対する一村一品運動の理解促進。

2. 調査団員の構成

団長	後藤 佐代子 (総括)	財団法人大分県国際交流センター 専務理事兼事務局長
団員	西川 芳昭 (研修効果測定)	久留米大学経済学部 助教授
団員	眞島 佐由子 (研修計画)	国際協力事業団九州国際センター業務課

3. 調査日程

日順	月日	曜日	訪問機関、面会者等	調査すべき事項、収集すべき資料等
1	7/15	日	移動（福岡→マニラ）	
2	16	月	JICA フィリピン事務所 在フィリピン日本大使館 内務地方自治省（DILG） 国家経済開発庁（NEDA） JICA 個別専門家 滝本氏	表敬、調査打合せ 表敬 研修評価、ニーズ聴取 研修員受入手続き確認 現地セミナーの打合せ
3	17	火	移動（マニラ→イロイロ） クラスター・アプローチ実施地域 水田・魚養殖プロジェクト 有機野菜生産プロジェクト 他 イロイロ市内食品マーケット 帰国研修員	（滝本専門家、JICA フィリピン福田 職員、セミナー通訳者同行） プロジェクトサイト視察 地元産品の流通状況の把握 研修評価、ニーズ聴取
4	18	水	現地セミナー 「一村一品運動：LGU クラスター・ アプローチへの一手法」	クラスター・プロジェクト概要説明 「一村一品運動」講演 帰国研修員による研修成果活用事例の 報告
5	19	木	現地セミナー 帰国研修員 移動（イロイロ→マニラ）	クラスター・プロジェクト調査報告 研修評価、ニーズ聴取 地域振興に係る研修員の取組状況調査
6	20	金	DILG JICA フィリピン事務所	調査報告 今後の手続き／方針の協議と確認
7	21	土	後藤団長 帰国 （マニラ→福岡）	
8	22	日	西川助教授・眞島 追加調査 移動（マニラ→セブ）	
9	23	月	セブ SEED プロジェクトオフィス C/P（帰国研修員・研修員候補） 移動（セブ市→カトモン町） 織布生産プロジェクト 改良ヤギ生産プロジェクト 地鶏生産プロジェクト他 移動（カトモン町→セブ市） セブ SEED 派遣 JICA 専門家	研修評価、ニーズ聴取 研修員の取組状況調査 プロジェクトサイト視察 住民との意見交換 住民参加型地域振興に係る意見交換
10	24	火	移動（セブ→タグビララン） 農村生活改善研修強化計画プロジェクト コミュニティ環境改善プロジェクト ウビ生産プロジェクト 移動（タグビララン→セブ）	プロジェクトサイト視察 住民との意見交換
11	25	水	帰国（セブ／関空→福岡）	

4. 調査内容と方法

(1) 調査内容

- ①フィリピンにおける地域振興政策の実施状況及び課題
- ②帰国研修員による研修成果の適用状況及び課題
- ③DILG クラスタ開発政策担当者及び対象者への一村一品運動理解促進

(2) 調査方法

- ①JICA フィリピン事務所、専門家、フィリピン側関係機関へのヒアリング
- ②帰国研修員へのアンケート及びインタビュー、所属先との意見交換
- ③DILG 派遣専門家主催の現地セミナーへの参加、講演の実施

5. 主要訪問先及び面談者

(氏名欄の◎は帰国研修員、○は平成13年度研修参加候補者)

所属機関	役職	氏名
JICA フィリピン事務所	所長	小野 英男
	所員	福田 茂樹
在フィリピン日本大使館	総領事兼総括公使	定岡 義行
	二等書記官	三宅
National Economic and Development Authority (NEDA)	Scholarship Affairs Secretariat	Ms. Editha S. Abergas
	Desk Officer, Special Committee on Scholarship	Ms. Aurora T. Collantes
Department of the Interior and Local Government (DILG)	Secretary	Mr. Jose D. Lina, Jr.
	Undersecretary for Local Governments	Mr. Eduardo R. Soliman, Jr.
	Director, Office of Project Development Service	Mr. Normando J. Toledo
	Director, Bureau of Local Government Development	Ms. Teresita M. Mistal
	Div. Chief, Bureau of Local Government Development	◎Ms. Priscella Mejillano
	LGGO III, Bureau of Local Government Development	○Ms. Gemma Roca Macatangay
	JICA 個別専門家 (地域振興・国内政策支援)	滝本 勝

所属機関	役職	氏名
Municipality of Romblon	Mayor	◎Ms. Alicia C. Fetalvero
Municipality of Nasugbu	Mayor	◎Mr. Raymund M. Apacible
Municipality of Santa Barbara	前 Mayor	◎Mr. Jone P. Sabidong
Municipality of Dinalungan	Mayor	◎Ms. Marilyn B. Marquez
Municipality of Magdalena	Mayor	◎Mr. Pablo V. Agapay
Municipality of Tanay	Mayor	◎Mr. Tomas R. A. Tanjuatco
Municipality of San Mariano	Mayor	○Mr. Jesus C. Miranda
Municipality of San Agustin	Mayor	○Ms. Lourdes C. Madrona
Municipality of New Lucena	Mayor	○Mr. June S. Mondejar
Municipality of San Miguel	Mayor	○Mr. Gregorio S. Villarico

< 追加調査 >

所属機関	役職	氏名
Province of Cebu (C/P of Cebu SEEDProject)	Provincial Planning and Development Coordinator	◎Mr. Quiroga Adolfo
	Project Management Office Staff	Mr. Rex V. Seno
	Project Development Assistant, Provincial Planning and Development Office	○Ms. Marites Roche Palomares
JICA Cebu SEED Project Office (セブ州地方部活性化計画)	JICA 専門家（開発行政） 同（村落開発） 同（参加型開発） 同（IEC） 同（業務調整）	清家 政信 千頭 聡 山口 綾 上村 泰 山下 哲雄
Municipality of Poro	Municipal Planning and Development Coordinator	◎Mr. Joel S. Gonzales

Municipality of Catmon	Municipal Planning and Development Coordinator	○Mr. John Montecillo Concha
	織布生産プロジェクト	住民グループメンバー
	改良ヤギ生産プロジェクト	住民グループメンバー
	地鶏生産プロジェクト	住民グループメンバー
Department of Trade and Industry (DTI) Bohol Provincial Office	Senior Trade and Industry Specialist	◎Ms. Concordis Inting Erano
Bohol ATI (Agricultural Training Institute) Center (JICA フィリピン農村生活改善研修強化計画：TSEPRLI)	Superintendent II	Ms. Carolyn Daquio
Municipality of Clain Coastal Barangay of Tngaran	Fisherfolks and Tngaran Fishermen Multi-purpose Cooperative	President and members of the cooperative
Municipality of Corella Barangay of Canapnapan and Canangaan	Rural Improvement Clubs	President and members of the clubs

II 調査結果

1. フィリピンにおける地域振興政策の実施状況及び課題

(1) フィリピン内務地方自治省による地域振興政策と JICA の協力

フィリピンの国内政策及び地方自治政策は内務地方自治省（DILG）が所管しているが、実際に地方自治体を対象とした協力案件では国家経済開発庁（NEDA）の地方局が主導権を握っている場合もあり、DILG 自体の役割が不明確な状況が見られる。そもそも、DILG の主要業務は、組織的にも「内務」にあたる警察や消防関連事業が多くを占めており、「自治」の分野、特に地域振興においてはデータのとりまとめや開発アイデアの提唱に留まっている。

このような状況のなか、JICA は DILG に個別専門家を派遣し、同省の地域振興政策を支援している。現在、同専門家が DILG とともに進めているのが、クラスター開発政策である。同政策の概要と方向性は以下のとおり。

- ①フィリピン全土で Municipality（町村レベル）は 1,496 あり、経済レベルや人口によって 6 クラスに区分されている。クラスター開発では、このうちクラス 4・5 の小規模自治体を対象とし、地域振興に共同で取り組むよう奨励している。
- ②現在、ルソンとビザヤの両地域の 4 州で 6 つのクラスターを形成している。1 クラスターには 4～6 の Municipality が属している。それらのクラスター間では進捗状況に開きが出始めており、成功例を学ぶなど相互理解を進める必要がある。
- ③クラスター開発に対する分析・評価については、JICA の研究支援事業でフィリピン大学社会開発学部が研究を行っている。
- ④初期の段階ではインフラが必要とされており、今後は研修によるソフト面の支援に加え、ハード面の支援の可能性を探る必要がある。

(2) 農村開発におけるフィリピンの地方分権の実態

地域開発は一義的には DILG の所管である。各州（Province）、市町村（Local Government Unit: LGU）レベルでは、1991 年施行の地方分権法以降に開発企画調整官（Planning and Development Coordinator）が配属され、行政の面から中心的な役割を担うことが期待されている。

ただし、農村開発においては分権以前から農業普及に携わっていた普及員との協力が欠かせない。しかしながら、農村開発を実質的に政府側から担う農業普及員を中心とした現場スタッフの問題点として以下のようなものがある。

- ①所属する LGU によって給与が異なり、労働意欲に影響している。
- ②限られた人数で担当 LGU をカバーするため、専門以外を広くカバーする必要があり、対象住民に対して必ずしも十分な支援ができていない。
- ③農業関係の研修はこれまでどおり農業省傘下の農業研修局（ATI）が提供しているが、参加経費はすべて LGU 負担となっており、地方によって機会に差が出ている。
- ④地域総合開発は DILG の管轄となったが、同省には予算がないため、従来通りの官庁によるプロジェクトを誘致する必要があり、人員の地方移管と事業実施の間に乖離がある。
- ⑤上記と関係し、これまで中央とのパイプとなり得た地方職員はラインミニストリーとの関係を絶たれ、政治家の役割が大きくなった。ただし、農業分野と林業分野で状況は若干異なる。
- ⑥政治家の意識は道路・電力等の短期に目に見えるインフラ開発にあり、必ずしも時間のかかる農業開発は重視されていない。

JICA は、DILG 派遣の専門家を通じ、自治体のネットワーク形成を助長する支援を行い、情報やノウハウの交換を通じた自助努力の発展に協力している。自治体首長及び職員に対する地域振興に関する研修を日本及びフィリピン国内で実施し、その中で農林水産業振興を図っている。

DILG は農林水産業振興において重要な実施機関とされており、地方レベルでの農業・農村開発における DILG の役割の明確かが必要と考えられる。今回、イロイロ及び周辺地域における現地調査では、地方レベルにおける DILG と LGU の連携は具体的なプロジェクト（運営資金）があるときは可能であることが示唆されており、クラスター開発のような取り組みを研修の面から支援していくことは、地方分権を踏まえたキャパシティービルディングに効果的であると考えられる。

LGU の強化は個別技術による個別公務員の技術向上だけではなく、LGU が国家、民間、NGO と連携するマネジメント能力の形成に重点を置くことと、LGU の強化のためには、国家組織も強化される必要があると考えられる。

（3）末端行政機能における現地 NGO の役割の実態

フィリピンには多様な性格を有する NGO が無数に存在する。その中で農業・農村開発に関係する主なものはとりあえず以下の 5 種類に分けられよう。

- ①国際 NGO でその活動のなかで貧困対策をおこなうもの：ケア・フィリピンやワールド・ビジョン・フィリピン等
- ②農業関係技術を持つ広域 NGO でフィリピンに本拠を持つもの：IIRR のような技術系のものや、PRRM のような運動体
- ③地域生産活動を行う NGO：農業共同組合等
- ④住民組織化を行う NGO：LGU や政治家の要請を受けて住民の組織化を行うもので、後述するセブ SEED プロジェクトでは NCDCI (North Cebu Development Cooperative Inc.) が協力している。
- ⑤草の根組織：住民によって組織されるいわゆる PO (People's Organisation)

調査した限りにおいては、NGO に期待される役割は以下のとおりである。

- ①政府・ドナーは、一定の期間内にプロジェクトの目標を達成するためには時間的に困難な住民の組織化を NGO にまかせるなり、既存の NGO を利用することによって事業の効率化を図っている。
- ②NGO は、自らは持たない資金・物資・技術を政府等の外部組織から調達し、地域におけるプレゼンスを高めている。
- ③住民は、個人ではアクセスできない行政機関のプロジェクト、市場、金融等への窓口として仲介者としての役割を NGO に期待している。

したがって、普及等技術面での貢献は関係するステークホルダーからは NGO には期待されていないと考えられる。しかし、行政や外国人専門家が苦手とする住民の組織化や援助受け入れの社会準備において NGO の果たす役割は大きい。

(4) フィリピンにおける参加型地域開発の課題（追加調査：セブ SEED 及びフィリピン農村生活改善プロジェクト視察報告）

1) セブ州地方部活性化プロジェクト（セブ SEED）

ア) プロジェクトの概要

①目標

地方自治体と地域コミュニティーの協力を通して、地域コミュニティーの開発のための適切な支援システムを構築する。

②期待される成果

州・郡レベルの地方自治体の開発管理能力を強化・改善する。地方自治体と地域コミュニティー間の開発のための協力関係を強化・改善する。地域コミュニティー開発の持続性と自律性が強化される。

イ) 視察結果

①帰国研修員・研修員候補者とのインタビュー

研修員は基本的に州あるいは町（Local Government Unit: LGU）の企画開発調整官であり、地域コミュニティー開発の地方行政側窓口であるとともに、それぞれの行政トップである知事や町長に対して開発課題や優先順位について進言できる立場にある。

帰国研修員は、このような自らに期待されている立場を十分に理解しており、日本での研修の体験をもとに、地域の住民が参加できる事業の展開を図っている。

ただし、日本人専門家の補足説明では、実態として政治家の力が強く、企画開発調整官の裁量は非常に限られており、そのことは彼ら自身ももっともよく自覚している。政治家主導の開発計画に行政官がどのように関わられるかを考えるきっかけを与えることが、プロジェクトに期待されている。

②カトモン町現場

織布生産プロジェクト、改良ヤギ生産プロジェクト、練炭生産プロジェクトを視察した。具体的に小規模な生計向上（収入創出）プロジェクトとして、住民参加で事業実施がなされており、またその企画・実施段階に町役場や農業普及組織が効果的に介在している。

収益配分についても議論されており、組織制度的持続可能性は高いと考えられる。何よりも町当局の担当者が目に見える形で事業実施に関わっていることは、地方レベルにおける自律発展の基本条件を満たすものとして期待できる。

2) フィリピン農村生活改善研修計画

ア) プロジェクトの概要

①全体の目標

農村生活改善研修プログラムが策定され、ATI（農業研修局）内部で制度化される。

②期待される成果（一部抜粋）

農村部における農業・農外生産活動と家庭内・地域社会内における生活活動のバランスを考慮しつつ、また、農村部のジェンダー面に配慮して地域住民のニーズを反映した農村生活改善活動が実施される。モデルセンター（ポホールはこの一つにあたる）や初期展開地区において、プログラムが効果的に実施されるために、ATI 及び他の機関との協力関係が強化される。

イ) 視察結果

訪れたバランガイでは、住民による漁業資源管理、トイレやゴミ捨て場の設置等の生成改善、貝細工作りなどのプロジェクトが実施されていた。住民による案内及びインタビューを通じて、特に以下の二点に気付かされた。

一つは、従来の中央の政策に基づいた生産技術を一方的に住民に普及するという開発手法とは異なる、住民参加の手法によるコミュニティー開発のやり方があるということに、住民が気付いていることである。

もう一つは、上と関連するが、そのような自分たちが主体的に参加して実施しているプロジェクトを住民自らが他者（我々訪問者）に説明できる力を身につけていることである。

これらは、今回の JICA プロジェクトの直接の目標ではないかもしれないが、地域における波及効果として注目すべきであろう。

一方で、農業普及が地方分権に伴い、地方自治体の権限下に置かれているにも関わらず、ATI の研修センターが農業省の傘下にあるという組織制度的矛盾の存在も指摘しておきたい。

研修に参加者を派遣できる自治体とできない自治体の差が拡がり、そのことが地域の活性化への力の差に繋がるのが懸念される。このような点で、DILG において滝本専門家が取り組んでいるクラスター開発の手法は、近隣の町が集まって限られた資源を有効利用する手法としても注目できよう。

2. 帰国研修員による研修成果の適用状況及び課題

(1) アンケート

1) 調査概要

①対象者 一村一品運動関連研修コース帰国研修員 22 名

②回答数 17 (回答率 77.3%)

③調査項目

- ・研修成果の普及・活用状況
- ・研修コースの改善に向けた提案
- ・帰国研修員間の交流状況

2) 回答内容

(質問項目 1 は研修員の個人情報のため省略)

質問 2. 研修成果とその普及活動状況

2.1 研修で得た知識や経験を伝える取り組みを行いましたか。

はい 15 名 いいえ 1 名 無回答 1 名

2.2 その対象者は誰ですか。(複数回答可)

管理職 9 名 同僚 11 名 地域住民 11 名

その他 5 名 (民間セクター、保健婦、女性グループ、大学教員等)

どのような方法で伝えましたか。(複数回答可)

報告書 11 名 発表会 7 名 セミナー 6 名

その他 15 名 (物産展の指導、NGO や PO との会合、 balan ガイ集会を通じた広報キャンペーン、議会報告、地域視察・勉強会等)

2.3 対象者は一村一品運動のコンセプトに関心を持ちましたか。

はい 16 名 いいえ 0 名 無回答 1 名

2.4 研修成果を伝える上での主要な障害は何ですか。(記述回答)

財政・資金不足 8 名

新しい概念を受け入れない保守的な政治制度や社会環境 6 名

開発の方向性が統一されない、組織間の利害対立 4 名

基礎インフラ、研究施設等のハード面の未整備 3 名

人材不足、住民に対する情報や教育の提供が不十分 2 名

リーダーシップの不足 1 名

州全体の開発計画と合致しない 1 名 等

2.5 研修を通じて新たなアイデアや概念、手法を発見しましたか。

はい 17 名

(住民の連携や地域の一体化による効果、市場を意識した高付加価値製品の生産・品質向上の必要性、伝統産品からの脱却、地域の環境や文化が観光振興につながるということ、自助努力の重要性、草の根レベルの企画・実施が高い効果を生むということ等)

いいえ 0 名

2.6 上記のアイデアや概念、手法を自らの活動に活用しましたか。

はい 13 名 いいえ 1 名 (実施計画策定中) 無回答 3 名

2.7 その活動は誰とともに行いましたか。(複数回答可)

自分のみ 4 名 管理職 5 名 同僚 8 名 地域住民 7 名

その他 6 名 (NGO、NPO、町長、農政部、人事部、女性グループ)

その活動はどのように行いましたか。(複数回答可)

日常業務内 8 名 管理職による指導 3 名

プロジェクトチームを組織 8 名

その他 2 名 (商工組合、女性グループ、 balan ガイ集会を活用)

2.8 一村一品運動に関連したプロジェクトやプログラムに関与しましたか。

はい 12 名 いいえ 3 名 無回答 2 名

2.9 上記プロジェクトやプログラムの対象者と主要目的は何ですか。

住民の組織化 (漁業組合づくり)

地元産業界に対する一村一品運動の広報

地域組織の生活環境改善

自治体間の連携促進

地元農民に対する地域資源を活用した特産品づくり奨励

地域住民への生計向上、貧困対策促進

住民による参加の推進

2.10 上記の事業はあなた自身や組織、地域に変化をもたらしましたか。

はい 16 名 いいえ 0 名 無回答 1 名

新たな知識と「気付き」によって前向きな姿勢が見られる。

積極的な支援姿勢によって行政に対する住民の信頼が向上した。

地域の取り組みが評価され、自治体活動賞を受けた。

NGO や他の機関から資金を得ることができた。
地域住民はさらに別の生計向上プログラムを開始した。
“Kabuhayan sa Sagingan”（Romblom で実施されているバナナ生産プロジェクト）に参加した農家の収入が大きく向上した。
品質や市場を意識するようになった。
経済状況を改善するにあたっての自立意識が高まった。

2.11 あなたのアイデアや概念、手法を適用するために不足しているものは何ですか。（複数回答可）

政治状況 8 名 法整備 2 名 管理能力 2 名 人材 8 名
資金 14 名 情報 7 名 組織間連携 3 名 インフラ 9 名
その他 1 名（まだ適用していない）

2.12 それらの問題へどのような対応策がとられるべきと考えますか。

適用可能性の高い開発コンセプトを導入する。
人材育成のために能力開発プログラムを実施する。
国際機関や NGO から資金を募る。
政治家の地域開発への意識改革を促す。
各セクターがそれぞれの情報を開示する。
行政だけでは予算が限られるので、民間セクターや NGO と連携し、それらの活力を用いた活動を行う。
自らがファシリテーター、広報、市場担当者として活動に関わる。

質問 3. 研修コースの改善

3.1 どの科目があなたの業務にとって最も有益でしたか。（複数回答可）

一村一品運動における大分県の行政施策 11 名
大分県の農業振興政策 6 名
研究指導センター 5 名
湯布院町の観光振興 7 名
久住町の環境に配慮した町づくり 5 名
大山町の NPC 運動 4 名
大山町農業共同組合 8 名
大分県内の市町村長との意見交換 7 名
他の研修参加者との意見交換 5 名
その他 2 名（現場視察すべて、湯布院町郊外でのリエンション）

3.2 帰国後の活動を支援するために追加した方が良い科目はありますか。

一村一品運動に基づく開発計画についてのディスカッション 1 名

漁業や海洋資源開発についての科目 3 名

一村一品運動の資金の流れ、活動資金の調達方法 1 名

住民グループの効果的な活動方法 1 名

一村一品運動を適用するまでの政治決定の流れ 1 名

地域活動をしている人々との直接的な交流やインタビュー 1 名

組織化の方法 1 名

地域資源の活用方法 1 名

流通戦略と製品の競争力向上 1 名

3.3 本研修の目的からみて除外しても良いと思われる科目はありますか。

すべての科目は必要 12 名

現場視察の数を減らし地域活動家との意見交換を入れてはどうか
1 名

3.4 平成 13 年度から参加型村落調査手法ワークショップを研修に組み込みますが、同手法についての知識や経験がありますか。

ある 6 名 ない 11 名

balanガイ開発計画のなかで実施した。

自らの担当地域で Asian Institute of Management による短期研修を実施した。

Local Government Academy の研修で学んだ。

他の地方行政官との会合を通じて学んだ。

3.5 研修に参加したことによる費用対効果をどのように評価しますか。

費用以上の効果が得られた 15 名 無回答 2 名

地方部における住民組織の在り方を学ぶことができた。

大山町の苦難と成功の歴史を伝えることで、農民とともに地域振興の取り組みをよりスムーズに行えるようになった。

日本の地域活動を支えた人々に接することができ、同時に他の研修員との出会いは大きな財産である。

機会均等ではない中で多くを学ぶ機会を得られたことに感謝。

自助努力と創意工夫という新たなコンセプトを得られた。

一村一品運動の概念は自分の地域に適用可能。得たものは大きい。

質問 4. 帰国研修員間の交流状況

4.1 帰国後に他の帰国研修員とコンタクトを取りましたか。

はい 12 名 いいえ 3 名

4.2 地域振興についての意見交換や情報交換を行っていますか。

はい 14 名（どのように研修成果を適用しているか等）

いいえ 2 名

4.3 他の帰国研修員との交流はあなたやあなたの仕事の助けになりますか。

はい 13 名 いいえ 2 名（環境が異なるので参考にならない）

4.4 あなたの国の帰国研修員同窓会は有効に機能していると思いますか。

はい 3 名 いいえ 7 名（情報が無い、組織自体を知らない等）

4.5 あなたは同窓会の活動に参加していますか。

はい 3 名 いいえ 10 名（機会があれば参加するが情報が無い）

4.6 同窓会への参加はあなたにとってメリットがあると思いますか。

はい 11 名 いいえ 0 名 わからない 3 名（情報が無いため）

4.7 JICA の帰国研修員支援についてコメントをお願いします。

雑誌の送付やフォローアップチームの派遣等、きめ細やかだ。

同窓会の活動がマニラなので、地方からの参加は難しい。

帰国後のフォローは十分なものだが、地域密着型の事業を実施するにあたってインフラ面での支援が得られればと思う。

自分は町長であるが、自分の部下の行政官にも同様の研修を受講させたい。

帰国後の支援は私たちのモチベーションを維持し、活動を促すのに効果的である。

フィリピンの他の地域で一村一品運動を適用したプロジェクトが成功していると聞いたことがある。そのような地域との交流を通じて成功までのプロセスを学びたいと思う。

3) アンケート調査票



**QUESTIONNAIRE
FOR EX-PARTICIPANTS
SEMINAR ON ONE VILLAGE,
ONE PRODUCT MOVEMENT**

1. Personal Data

1.1 Name _____

1.2 Date of Birth _____

1.3 Name of organization where currently employed

Address _____

(Street and Number) (City) (Province) (Zip code)

Tel/Fax _____ / _____ E-mail _____

1.4 Your position and responsibilities at present

Position _____

Responsibilities _____

1.5 JICA training program you have participated

- a. Jan. – Mar. in 1999 “Seminar on Administration for Rural/Regional Development”
- b. Sept. in 1999 “Seminar on One Village, One Product Movement”
- c. Sept. – Nov. in 1999 “Seminar on Administration for Rural/Regional Development”
- d. Sept. – Nov. in 2000 “Seminar on Administration for Rural/Regional Development”
- e. Oct. in 2000 “Seminar on One Village, One Product Movement”

1.6 Education/Training (Degree/non-degree) after attending training at JICA

Name of Education/ Training Institute	Location of the institute	Years attended from — to	Certificate / Diploma / Degree and Major in

2.11 What are the main obstacles in implementation of your idea/concept/method?

- Lack of
- a. Political environment
 - b. Legal regulatory framework
 - c. Accountability of management
 - d. Human resources
 - e. Financial resources
 - f. Information
 - g. Inter agency/entity relationship
 - h. Infrastructures
 - i. Others ()

2.12 What kinds of countermeasures should be taken for those problems?

3. Betterment of training program

3.1 Which part of training held by JICA was most useful to you in relation to your subsequent position and responsibility?

- a. Administration for One Village, One Product Movement of Oita Prefectural Government
- b. Administration for agricultural development of Oita Prefectural Government
- c. Research and training institutions
- d. Tourism in Yufuin Town
- e. Eco-activity in Kyju Town
- f. NPC Movement in Oyama Town
- g. Farmers Cooperative Association in Oyama Town
- h. Discussions with Mayors in Oita
- i. Discussions with other participants
- j. Others ()

3.2 Are there any topics or subjects that should be added in curriculum for supporting your action after returning home country?

3.3 Are there any topics or subjects that might not be needed for purpose of this course?

3.4 We will have PRA/PLA workshop in this year's program. Do you have any experience or knowledge about PRA/PLA?

(PRA: Participatory Rural Appraisal, PLA: Participatory Learning and Action)

a. YES → where and how did you learn?

b. NO

3.5 Comparing the benefits you derived from attending the training course in Japan and the costs you incurred in terms of time, efforts and others, was there a net gain or not? In either case, please explain it, and, if possible, the reason.

4. Cooperation with other ex-participants

4.1 Have you contacted with other ex-participants in your group after you returned your country?

- a. YES b. NO

4.2 Do you exchange opinions and information regarding to rural/regional development?

- a. YES b. NO

4.3 Have the relationship with other ex-participants helped you or your work?

- a. YES b. NO

4.4 Do you think that the Alumni Association in your country is actively functioning?

- a. YES b. NO

4.5 Are you participating in the Alumni Association activities?

- a. YES b. NO

4.6 Do you think that your involvement in the Alumni Association is helpful for yourself?

- a. YES b. NO

4.7 Please make a comment if any on the JICA's post-training services.

Thank you very much for your cooperation and assistance.

END

(2) インタビュー

1) フィリピン一村一品運動セミナー（町長向けコース）帰国研修員

面接者：Ms. Alicia C. Fetalvero（Calatrava 町長）

Mr. Raymund M. Apacible（Nasugbu 町長）

Mr. Jone P. Sabidong（前 Santa Barbara 町長）

Ms. Marilyn B. Marquez（Dinalungan 町長）

Mr. Pablo V. Agapay（Magdalena 町長）

Mr. Tomas R. A. Tanjuatco（Tanay 町長）

①帰国後の活動について

- ・町内3カ所にモデル農場を作り、農民を支援している。そこでの成功を他地域に紹介し、順次拡大していきたい。また、農業省の資金を得て農家を対象とした3ヶ月間の教育プログラムを実施している。（Apacible）。
- ・前回の選挙で落選して現在は町長ではないが、町長在職時はクラスター開発の先行地域として水田での魚養殖や有機野菜栽培等のプロジェクトを行った。現在は NGO として住民の意思啓発活動等に携わっている（Sabidong）。
- ・町内のバランガイへ貿易産業省の資金から融資を行い、ココナッツオイル製品の生産活動を支援している（Marquez）。
- ・地域活性化のための複数のプロジェクトを実施中。町で基金を作り、住民主体でココナッツの木の下でバナナを生産するキャンペーンを行い、女性を対象とした小規模融資を通じてバナナの流通を支援。さらに、Costal Resorts Managing Project により、漁師によるマングローブの植樹と保護を促進している（Fetalvero）。
- ・農業協同組合の組織化を促し、ドイツとオランダの援助機関から資金を取り付けて農協の活動を支援している。また、町による農家への融資制度を設け、農耕機械の購入等を支援している（Agapay）。
- ・専業主婦の組織を活用し、切り花を特産品として域外に販売。町立のエコロジーセンターを設立し、婦人グループが生ゴミから作った有機肥料を用いて野菜を栽培、販売している（Tanjuatco）。

②研修に対する提案・意見

- ・マニラ近郊に位置する自分の町は旅行客や映画ロケを誘致するのに適しており、地域資源を活かした観光という面で湯布院町の例が参考になった。

- ・住民は依然として政府への依存が強く受け身の姿勢であり、製品の品質を向上しようとしても教育が難しい。意識改革の手法を知りたい。
- ・市町村長との意見交換は大変有意義であるが、さらに住民と直接意見交換をして、彼らの地域開発に対する姿勢や意見を知りたい。
- ・行政が地域住民とどのようにコミュニケーションをとっているかを知りたい。
- ・効果的な流通、市場の情報アクセス方法について知りたい。
- ・自分の所属している州の知事が日本へ行ったことがあり、一村一品運動についても関心を持っていたため、帰国後の活動に支援を得られた。
- ・一村一品運動の概念を町役場の行政官にも学ばせたい。行政官向け研修に参加させることはできないだろうか。

2) 地域振興行政セミナー：一村一品運動（行政官向けコース）帰国研修員

面接者：Ms. Priscella B. Mejillano（DILG 地方自治開発局開発担当官）

Ms. Concordia I. Erano（貿易産業省ボホール事務所専門官）

Mr. Adolfo V. Quiroga（セブ州政府企画開発局長）

Mr. Joel S. Gonzales（Poro 町企画開発調整官）

①帰国後の活動について

- ・クラスター開発政策の実施担当者として、対象地域の町長を集めて一村一品運動の概念を紹介するなど地域振興を支援（Mejillano）。
- ・地元商工会議所と連携し、地元産品の物産展を開催（Erano）。
- ・住民参加型開発のプロジェクト推進（Quiroga）。
- ・漁業協同組合の活動支援（Gonzales）。

②帰国後の活動経験を踏まえて研修に求める内容

- ・農業、観光、畜産の事例を紹介され大変参考になったが、漁業の事例も学びたい。
- ・一村一品運動の成功事例だけでなく、活動の過程の失敗談も含めてその要因を学びたい。
- ・運動に消極的な、保守的な人々をどのように取り込んだのか知りたい。
- ・自分の地域では直売をやっても買う側の言い値で価格が決まってしまう。木の花ガルテンなど直売における価格決定の仕組みが知りたい。
- ・一村一品運動の効果を地域住民自身がどのように認識しているかを知りたい。その意味で、住民と意見交換する機会があれば良いと思う。

- ・参加型開発手法を日本の事例を通じて学ぶことは有益。ただし、フィリピンでは調査や意思決定に参加するのがリーダーに限られている例が多く、地域が抱える問題が十分に明らかにならない。また、調査に長時間を費やすことが多く、実践への移行が課題となっている。研修では実践活動を意識した手法の紹介が望ましい。

3. クラスター開発政策関係者に対する一村一品運動の理解促進

(1) 現地セミナーの概要

- 1) タイトル In-country Seminar on One Village, One Product Movement: A Strategy to LGU-Cluster Approach
- 2) 日 時 平成13年7月17～19日
- 3) 実施地 イロイロ州イロイロ市、周辺町村プロジェクトサイト
- 4) 主催者 DILG、同省派遣 滝本勝専門家
- 5) 対象者 クラスター開発対象地域の町長
- 6) 目 的 DILG が進めるクラスター開発の先行事例を視察し、その経験を共有するとともに、地域振興戦略のひとつである一村一品運動の概念を学ぶ。
- 7) 内 容 別添報告書参照

(2) クラスター開発における一村一品運動の位置付け

1) 行政首長のリーダーシップと住民の主体性

一村一品運動の重要なポイントは①地域資源（自然・歴史・文化・伝統技術・生活習慣）の固有価値を再認識すること、②住民の主体性や自立を促すための意識啓発、③実践活動とその継続（失敗から学び、さらに挑戦する）にある。

地域開発において行政首長のリーダーシップは大きな役割を果たすが、同時に首長自らが地域の特性や住民のニーズを十分に理解したうえで、身近な課題から確実に実践していくことが重要である。

また、地域の活力を引き出すうえで、町長は自らのアイディアの下で人材育成の場、住民の学習の場を設ける必要がある。この際、JICA や DILG はあくまでもそうした地域の取り組みを側面的に支援し、実践のイニシアチブは町側に求められる。

2) フィリピン国内研修の必要性

地方自治制度や政治社会状況が異なるなかで、一村一品運動をそのまま適用することは現実的ではない。重要なのは、大分県の事例を参考にし、自らの地域に適した運動を見つけだすことにある。

また、町長を対象とした本邦研修は受入人数・受入期間とも限られており、研修そのものから直接的な成果へと結びつけることは困難である。

その意味で、フィリピン国内において体系的な研修計画を設置し、大分県における国別特設研修をその一部として位置づけることが望ましい。すでに DILG は下部組織である Local Government Academy (LGA) において地域開発分野の研修を実施しているが、そうした現地国内研修と本邦研修とを有機的に関連づけることにより、研修効果の一層の向上が期待される。

3) 帰国後の活動支援の必要性

クラスター開発においては対象町村の行政首長間の連携が重要であるとともに、クラスター間の情報共有が効果的な役割を果たす。この意味で、研修に参加した町長には新たに習得した知識や経験、帰国後の活動事例を他地域へと還元させることが望ましい。

JICA 及び DILG は今回の現地セミナーのような機会を定期的に設け、帰国研修員である町長の活動状況を紹介することによって地域間の情報の共有化を図ると同時に、セミナー開催地の町長及び住民の意欲をさらに高めるような支援が可能である。

III 調査総括及び課題・提言

1. 調査結果の総括

本調査を通じ、フィリピンにおける地域振興政策の実施状況と課題が明らかになるとともに、帰国研修員の活動状況の把握や研修ニーズの再確認、クラスター開発政策関係者への一村一品運動に対する理解促進といった目的は概ね達成されたと考えられる。

(1) フィリピンにおける地域振興政策

フィリピンの地域振興政策については、全体的な枠組みや動向を把握するとともに、①DILG によるクラスター開発プロジェクト、②セブ州地方部活性化プロジェクト、③農村生活改善研修強化計画プロジェクトというアクターの異なる3つの案件を視察した。それぞれ、フィリピン側の実施主体は①中央政府、②州政府、③農業省であるが、いずれもその活動は Municipality に密着するかたちをとっており、活動は地域住民の主体性を重視するものであった。

(2) 帰国研修員の活動状況の把握・研修ニーズの再確認

また、現地セミナーの開催を通じ、研修に参加した各町長の具体的かつ活発な取り組みを直接確認することができた。この背景には、開発政策における首長の影響力の大きさが存在しており、行政リーダーの意識啓発を目的とした本邦研修の意義が認められた。

一方、実務担当者である行政官の活動は首長に比べ小規模ではあるものの、アンケート結果等を見る限りでは何らかのアクションに結びついていることが分かった。それらの活動の中では、資金やインフラの不足とともに、人材育成や他の行政部門や NGO、民間セクターとの連携が課題としてあげられており、事例紹介のなかでは活動資金の流れや官民連携の事例を具体的に紹介する必要が認められた。

(3) 一村一品運動に対する理解促進

アンケートやインタビューのなかで、研修から得たアイデアや研修に望む内容として、高付加価値製品の選定やマーケティングといった商品生産・販売を重視する意見が多く見られた。本邦研修においては、一村一品運動が貧困対策や生計向上のための地域活動全般を指し、その基本が人材育成にあることを繰り返し説明しているが、研修員のなかには依然として特産品の生産・販売というイメージを強く持っている者がいることがわかった。

その意味でも、現地セミナーで関係者に対して一村一品運動の概念を直接紹

介する機会が得られたことは有意義であったと思われる。

さらに、今回の調査を通じ、本邦研修の実施機関とフィリピン事務所及び専門家、NEDA、DILG、町長といった関係者が研修に対する共通認識を持ったことは、研修を実施する上で重要な成果である。特に、新規コースの立ち上げにあたり、大分県国際交流センター・JICA・DILGの3者が共同で研修計画を協議・策定することにより、フィリピンにおける援助政策・地域開発計画との効果的な連携が図られた。

2. 研修コースへの提言

(1) 行政官対象コース

LGUにおいては、知事または町長等の政治家の権限が強く、政治家が短期に目に見えるプロジェクトを好むことから、開発担当調整官の研修の実際的な効果には限界があると考えられる。

しかしながら、政治家が複数の選択肢を持つときや、新たなプロジェクトを実施する際に、計画立案を行うことができ、それを提案できる行政官が育つことは、地方分権の実質化のためには不可欠であり、研修の効果はある。

また、新たに開始される行政首長対象コースとの連携により、同コースに参加した首長と同一地域の行政官を受け入れることで、政治的なリーダーシップが実務担当者の活動をより支援するものとなりうる。

個々のカリキュラムについては、平成13年度からは研修員のニーズに基づいて漁業や流通の項目を導入するが、帰国研修員のアンケートやインタビューに見られたような一村一品運動イコール特産品の生産・販売というイメージの固定化を防ぐためにも、今まで以上に地域活動としての側面を強調する必要があると思われる。

その一方で、一村一品運動の背景にある日本の地方自治行財政制度を理解するとともに、内発的発展という観点から住民参加の在り方を捉えることで、研修員の一村一品運動への理解をより深める必要がある。それらの情報は、自らの地域にその概念を取り入れる際の判断材料ともなりうる。

さらに、研修員が共通して抱える問題として、地域住民とのコミュニケーション、住民の参加促進、意識啓発の難しさであった。これに対し、参加型開発手法を経験したことのある研修員は限られたものとなっており、本邦研修において参加型開発手法を紹介する必要性が認められた。13年度から本コースでPRA/PLAワークショップを実施するうえでは、研修員の帰国後の活動を支援するような実践的な視点が求められる。

(2) 行政首長対象コース

現在の地方分権政策のなかで、Municipality には政治的ムードが強くなっている。町長は3年毎に選挙を迎え、制度上は3選が禁止されているが、実際は地元の有力者一族が政治権力を掌握している場合が多い。

クラスター開発を通じて複数の町長が意見交換を行うことは、町長をはじめとする地域全体の開発意欲を向上させ、政策の透明性を高めることにつながる。

そうした行政首長の役割の大きさから、一村一品運動の積極的評価の紹介を中心とした町長対象のコースは、政治家に工夫をしてもらう可能性を広げることになり、有意義である。

ただし、地域振興には住民の自主・自立が必要不可欠であり、行政は住民の参加を引き出すような政策をとる必要がある。そのような一村一品運動のコンセプトを行政首長に直接伝えることにより、トップによるリーダーシップの啓発と同時に住民の主体性の重要性を認識させることが、「地方自治クラスター活性化セミナー」に求められている。

添 付 資 料

IV 現地セミナー報告書

In-Country Seminar on “One-Village, One-Product Movement”: A Strategy to LGU-Cluster Approach”

(フィリピン内務地方自治省作成／記録写真及び添付資料は省略)

TABLE OF CONTENTS

I. First Day

- Briefing on Seminar Activities
- Field Visits to Iloilo Cluster Projects
 - Participants
 - Japan delegates
- Sharing/Insights on Cluster Projects

II. Second Day

- Formal Opening
- Reports on adoption/Application of One-Village, One-Product Movement by the Clusters and CALABARZON Mayors
- Discussion on LGU-Cluster development Approach: Updates and Challenges
- Awarding Ceremonies/Cocktails

III. Third Day

- Presentation of General Findings on In-depth Research on rural Improvement for Enterprise Development in Clustered LGUs
- Action Planning on expansion/Replication of LGU-Cluster Development Approach Project
- Presentation of Action Plans
- Closing Program

IV. Open Forum/Issues and Concerns

V. Pictorials

VI. Attachments

- Insights/Impressions on 2nd IAD Cluster Projects
- Action Plans
- Project Design
- Department Order
- Certificate of Participation
- Attendance Sheets
- Program of Activities
- LGU-CLAP Profile
- Oita Prefecture Materials

Acknowledgment

The Bureau of Local Government Development wishes to acknowledge the following persons for their invaluable support in the successful conduct of the In-Country Seminar on One-Village, One-Product Movement- A Strategy to LGU Clustering held in Iloilo on July 17-19, 2001:

Director Rexdito T. Reyes, other officials and staff
DILG Region VI

Mrs. Sayoko Goto
Senior Managing Director/Executive Director
Oita International Center- Oita, Japan

Mr. Masaru Takimoto
DILG-JICA Expert

Mr. Shigeki Fukuda
Assistant Resident Representative
JICA-Makati Office

Yoshimitsu Kotegawa
Director
One-Village, One-Product Movement Promotion Office
Oita Prefectural Government

Yoshiaki Nishikawa
Associate Professor
Faculty of Economics, Kurume University

Ms. Sayoko Majima
Programme Officer
Kyushu International Center

The Bureau will forever be indebted to these officials who took time out in joining the seminar and providing the necessary inputs to the participants on the value of cooperation, independence and creativity for the enhancement of rural/regional development in the country through the "One-Village, One Product Movement". The assistance of DILG Region VI officials and staff is equally important to us as they also put to work the value of cooperation this important activity of the Bureau that promotes the LGU-Cluster Development Approach Project.


TERESITA M. MISTAL, CESO III
Director, BLGD

SEMINAR PROFILE

ACTIVITY TITLE : In-Country Seminar on "One-Village, One-Product Movement": A Strategy to LGU-Cluster Approach

PROPONENT : Policy and Program Development Section
Local Administrative Development Division
Bureau of Local Government Development
Department of the Interior and Local Government

**FUNDING/
COLLABORATING
AGENCY :** Japan International Cooperation Agency (JICA)

DATE & VENUE : July 17-19, 2001
Sarabia Manor Convention Center
Iloilo City, Philippines

**PROFILE OF
PARTICIPANTS :**

Municipal Mayors	36
Municipal Planning & Development Coordinators	8
Assistant Municipal Planning & Development Coordinator	1
LGU Executive Assistants	3
Municipal Agriculturists	5
Tourism Officer	1
2 nd Integrated Area Development Secretary	1
DILG Provincial Directors	10
Regional/Provincial Local Government Operations Officers	8
Municipal Local Gov't Operations Officers	6
BLGD Director/Assistant Director & Staff	<u>8</u>
Total	91

GUEST SPEAKERS : **Director TERESITA M. MISTAL, CESO III**
Bureau of Local Government Development
Department of the Interior and Local Government
Quezon City, Philippines

Director REXDITO T. REYES, CESO III
Regional Director, DILG-Region VI
Iloilo City, Philippines

Mr. MASARU TAKIMOTO
JICA Representative
DILG-JICA Expert

Mr. SHIGEKI FUKUDA
Assistant Resident Representative
JICA, Makati City, Philippines

Ms. EVELYN TROMPETA, CESO IV
Assistant Regional Director, DILG-Region VI
Iloilo City, Philippines

Ms. SUSITA G. BULAWIT
OIC Assistant Director, DILG-BLGD
Quezon City, Philippines

RESOURCE PERSONS : **Ms. SAYOKO GOTO**
Senior Managing Director/Executive Director
Oita International Centre, Japan

Dr. EMMANUEL LUNA, Ph.D.
Director, College of Social Work and
Community Development
University of the Philippines
Diliman, Quezon City, Philippines

Ms. PRISCELLA B. MEJILLANO
OIC Assistant Division Chief
Local Administrative Development Division
DILG-BLGD, Quezon City, Philippines

OBJECTIVES

1. To orient the participants on the different phases of LGU Clustering; its conceptual framework, development stages in cluster planning, actual workings and experiences of the clustered municipalities and other relevant strategies in clustering;
2. To advocate the LGU-Cluster Development Approach Project (LGU-CLAP) as a tool to ensure equitable distribution of scarce resources among low-income municipalities;
3. To exchange views and opinions with officials of "One-Village, One-Product Movement" in Japan and local officials, showing the actual situations relevant to the cluster development approach;
4. To promote the "One-Village, One-Product Movement": A Strategy to LGU-Cluster Approach to attain regional development for clustered municipalities

INTRODUCTION

The National Government envisions to promote local autonomy among local governments for them to become self-reliant and effective in governing their affairs. Within the context of the Local Government Code (LGC) of 1991, known as Republic Act 7160 LGUs are empowered to exercise their functions for social and economic development. Consistent with the Macroeconomic Framework and Development Financing objectives under the Medium Term Philippine Development Plan, local government units must take part in the macroeconomic development and management to set pace for economic recovery of the country.

Viewed from this, the Department of the Interior and Local Government (DILG) takes a lead role in ensuring that LGUs participate in the government's overall efforts toward accelerated economic development. Part of its advocacy is to ensure that municipalities be increasingly aware of their roles in promoting development in their areas. The DILG, through the Bureau of Local Government Development (DILG-BLGD) developed and introduced the Local Government Unit-Cluster Development Approach Project (LGU-CLAP) purposely to pursue a more integrated and unified development among low-income municipalities. Thus, the concept of inter-local partnership was adopted through this project.

The LGU-Cluster Development Approach has been implemented by BLGD on pilot basis in Regions I, II, IV and VI, aimed to promote and strengthen the provisions of Sections 16, and 17 of the Local Government Code on the promotion of general welfare and provision of basic facilities and services delivery; Sections 33 and 35 of the same autonomy law; Article 61, Rule XII of the Implementing Rules and Regulations of the Code; Section XIII, Article X of the Philippine Constitution and other related laws and policies on consolidating and coordinating LGU resources for purposes commonly beneficial to them.

BLGD has formally organized 6 clusters composed of 34 municipalities from the provinces of Ilocos Sur, Iloilo, Isabela and Romblon. These are Clustered Upland Municipalities of Ilocos Sur (CUMILOS); 2nd Iloilo Integrated Area Development (2nd IAD); Area Management Approach to Local Governance I, II & III (AMALOG I, II & III) in Isabela and Calatrava, San Agustin, Santa Maria and San Andres (CASAGANAAN, INC.) in Romblon.

With the support of Japan International Cooperation Agency (JICA), the cluster project adopts to the Japanese Model of "One-Village, One-Product Movement" in Oita Prefecture Japan as a parallel approach in developing rural communities through pooling of resources and strengthening partnerships with Non-Government Organizations (NGOs), Private Sectors (PS) and People's Organizations (POs). The project takes cognizance of the potential entrepreneurs in the areas who have the capacity to develop the economies of their respective local government units, such as the municipalities. While a number of Mayors and Municipal Planning and Development Coordinators have already been trained on the "One-Village, One-Product Movement", both BLGD and JICA see the need to define and advocate the relevance of the movement to LGU clustering, as a strategy for rural/regional development; and one of the mechanism is through the conduct of In-Country Seminar. Thus, BLGD, in partnership with JICA conducted the In-Country Seminar on "One-Village, One-Product Movement": A Strategy to LGU Cluster Development on July 17-19, 2001 at Sarabia Manor Convention Center, Iloilo City, Philippines.

ACTIVITY PROPER

Day 1- July 17, 2001

I. Arrival & Registration of Participants

II. Briefing of Seminar Activities

Ms. Priscella B. Mejillano, OIC-Assistant Division Chief & Overall Coordinator of the activity, briefed the participants on the activities for the day which are : a) field visits to the cluster projects of Iloilo, and b) sharing of insights on the projects. She also discussed briefly the guide format in the presentation of their observations/insights.

III. Visits to 2nd Integrated Area Development Cluster Projects

The projects visited by the participants were the following:

- 1) Integrated Farming "Palay-Isdaan"
- 2) Palay Seed Producer & Rice Miller
- 3) Tilapia Hatchery
- 4) Integrated Pest Management on Vegetable Production

The projects are located in the municipalities of San Manuel, Sta. Barbara and New Lucena, province of Iloilo.

During the visits, the Area Manager of the Cluster, Ms. Mathilde Salazar (Agriculturist of Sta. Barbara, Iloilo) emphasized that the role of the cluster on the projects is provision of technical assistance in the form of trainings/seminars to the farmer-cooperators on advance agricultural/farming technologies, aqua-culture development technology and integrated pest management (IPM) on vegetable production.

The cluster members further explained the projects visited by the participants.

A. Project Description

1. Integrated Farming System "Palay-Isdaan"

The project is located at Barangay Sto.Nino, San Miguel, Iloilo. This is an integrated farming operated by a private entrepreneur wherein "mudfish" is being cultured within the rice paddies. The area is suitable to high variety of palay seeds and adequate to supply seeds to other farmer cooperators. During harvest seasons "mudfish" are sold for local consumption to residents of San Miguel.

2. Palay Seed Production and Rice Miller

The project is located at Barangay Bolong Este, Sta. Barbara, Iloilo. Palay Seed Production can provide and sustain the availability of high quality seeds to the cooperators/farmers of the 2nd IAD municipalities and nearby municipalities. The municipality of Santa Barbara has identified palay seed production project because of its potential availability of irrigated areas, available resources and trained farmers. Total number of seed growers within the cluster are eight (8); 50 hectares of land are devoted for the project and expected to produce 80-100 cavans/hectare or 4,000-5,000 cavans. Demand of certified seeds is also high because of government procurement assistance through subsidized program on seeds.

3. Tilapia Hatchery

The project is located within the municipal grounds, at the back of the Municipal Building of Sta. Barbara, Iloilo. Tilapia Hatchery project aims to supply and sustain fingerling requirements which is highly acceptable in upland and landlocked areas where fish is not abundant. The hatchery is established in the municipality of Sta. Barbara. It is funded by the 2nd IAD Cluster and the Provincial Government of Iloilo. The hatchery became operational last December 2000. Four (4) nursery ponds are established in four other member municipalities. It started with 8"x6"x4" sq.meters of 48 sq. meters with only 15 pairs of breeders. The fingerling production increased to a total of 17,053 from January to June 2001. At present, there are a total of 48 pairs of breeders.

4. Integrated Pest Management on Vegetable Production

The project is located at Barangay San Antonio, New Lucena. It is quite isolated from the municipality. Vegetable Production is one of the common projects of the cluster especially in the municipalities of Alimodian and Leon where the climate favors the production of high-valued vegetables such as eggplants, carrots, cabbages and sweet potatoes. In the municipalities of Sta. Barbara, San Miguel and New Lucena, idle lands and marginal areas are utilized for Integrated Pest Management vegetable productions. The demand of pesticide free vegetables is high. The cluster facilitated the conduct

of Farmers Field Schooling on IPM vegetable production in the five-member municipalities. Crops planted are eggplant, sweet pepper, ampalaya, carrots and cabbage covering 120 hectares and operated by 200 farmers for local market demands. A total of 500 farmers have undergone the training on Farmers Field Schooling on IPM.

After the field visits, the participants were grouped according to their clusters. The mayors from CALABARZON were grouped as one to discuss their insights/observations. This served as the first workshop activity.

After the workshop, the groups presented their outputs in a Plenary Session.

Reporters were the following:

1. CALABARZON - Mayor Raymundo Apacible
Nasugbu, Batangas
2. From the Clustered
Municipalities - Mayor Alice C. Fetalvero
Calatrava, Romblon
3. Directors' Group - Atty Aida Z. Laruda
Provincial Director
Leyte

B. General Impressions/Observations on the Projects Visited

1. The location of the projects is generally accessible to transportation. It is flood-free area and very much suitable to palay growers.
2. The scale of the project is very small to make an impact in the general population of the municipality. There is a foreseen low production due to lack of public/private participation.
3. The technical assistance/support in the form of training on advanced technology on farming and inland fishing is under the stewardship of the cluster. The cluster provides continuing technical assistance on the project through trainings/seminars on advanced technology on farming/in-land fishing technologies.
4. It is privately-owned and managed by an entrepreneur, with the technical support from the cluster
5. The area is accessible and suitable to different variety of palay seeds, abundant water supply. Four (4) hectares were planted with palay.
6. Suppliers of palay seed grower to the farmer cooperators were identified and accredited by the cooperatives.

7. The project is very accessible since it is just located within the municipal grounds of Sta. Barbara.
8. The size is too small (8" x 6" x 4" sq. meters) with 15 pairs of tilapia breeders. Considering the abundant water supply, this must be expanded.
9. The production of fingerlings is not adequate to supply the member-municipalities of the cluster.
10. Location is quite isolated from the municipality of New Lucena. It is a "One-Person, One-Product" project and looks like a demo farm/backyard vegetable production.
11. Seeds are supported by Local Government Support Program through the 2nd IAD cluster.
12. IPM is being practiced using biological method and light-trapping of central pests for the production of vegetables. Insect repellants are planted within the area to control pests.

C. Areas for Improvements of the Cluster Projects

With the technical assistance on trainings and seminars in advanced technologies on farming, inland fishing (fingerlings production), vegetable production and marketing strategies from the Department of Trade and Industry (DTI), Department of Agriculture (DA), Department of Science and Technology (DOST), Technology Resource Center (TLRC) and support from JICA, and other institution, implementation of related cluster projects could be improved.

The Municipal Planning and Development Coordinators of the clusters should request for trainings/seminars on project proposal/project packaging/feasibility study to make them more knowledgeable in the preparation of feasible and viable project proposals

D. Opportunity for Replicating the Projects to other Clusters

Below are the participants opinions on replicating the 2nd Iloilo Integrated Cluster projects considering their available lands and financial resources:

1) CUMILOS Cluster

- Rice-Fish Culture can be replicated in Gregorio del Pilar and San Emilio in the province of Ilocos Sur
- Palay Seed Production can be replicated, but CUMILOS has to secure palay seeds in Pangasinan and Isabela provinces
- Tilapia hatchery is already being done in some LGU-members particularly in the municipalities of San Emilio and Banayoyo
- IPM Vegetable Production, the area is suitable for vegetable production but could not market the harvest due to bad roads

2) CALABARZON

- Clustering is not practiced in the region but replicating the projects is possible and in fact, is already being done in various localities

3) AMALOG I

- Projects can be replicated by improving the actual experience of the Cluster

4) AMALOG II

- By pooling of resources, the projects could be replicated in AMALOG II with the positive attitude of the mayor and their determination to pursue the projects

5) AMALOG III

- Looking forward to replicate the project suitable to their own land and available resources

6) CASAGANAAN, INC

- Possible to replicate due to abundant salt water fish
- Very much interested in the project - to improve their farming practices – very traditional

7) Diversified Representation of Provincial Directors from Ilocos Sur, Isabela, Romblon, Leyte, Southern Leyte, Zamboanga del Sur, Zamboanga del Norte, Bukidnon and Misamis Oriental

- The provinces are still contemplating on the adoption of cluster project. This project can grow bigger if more funds be pooled by the members of the cluster.
- Palay-Fish Culture – could be improved if more funds are invested into the project.
- Tilapia Hatchery – if more space is allotted, more tilapia breeders can avail, thus, increased number of fingerlings can be harvested. The plan to expand to 143,000 fingerlings can be realized if funds can properly accessed.
- Diversified farming can be expanded, not just backyard vegetable/fishing production. More agricultural produce can actually be accommodated.

OPENING PROGRAM

Day 2 – July 18

Welcome Remarks

by: *Director Rexdito T. Reyes*
DILG-Region VI

The opening program was sponsored by DILG-Regional Office of Region VI, headed by Director Rexdito P. Reyes. Assistant Director Evelyn Trompeta introduced the participants composed of local chief executives, local functionaries and DILG field officers from Regions I, II, IV, VI, VII, VIII, IX, X and CAR.

In his welcome message, Director Reyes acknowledged the presence of the participants, particularly the Local Chief Executives who, despite their hectic schedules in their respective LGUs still found time to attend the seminar. He thanked the JICA representatives and officials from Oita Prefecture and for the assistance given by both BLGD and JICA to the 2nd Integrated Area Development Cluster of Iloilo.

He stated that clustering is a very acceptable development approach in Region VI, citing the various clusters which have been very successful in Iloilo Province like Northern Iloilo Alliance for Coastal Development (NIACDEV), Central Panay Economic Union in Capiz and Aklan, Pilar Bay Coastal Resource Management in Capiz, Culasi in Antique Province (LIPASECU), and the 2nd IAD Cluster which is being implemented in coordination with BLGD. At present, LGUs from the province of Iloilo has signed a MOA, committing their resources to promote LGU clustering. According to Director Reyes, this will also pave a way for setting-up a good urban governance in the province of Iloilo replicating the Metro Manila Development Authority and may be known as Metro Iloilo Development Authority.

He mentioned that One-Village, One-Product Movement, as a strategy to attain development within the cluster can also be an effective strategy for effective local governance. He believes that helping one another speed up the development and attainment of common vision of the cluster.

Message

Ms. Teresita M. Mistal, CESO III
Director, DILG-BLGD

Director Teresita M. Mistal of the Bureau of Local Government Development gave her inspirational message. She gave a brief background on the conceptualization of the LGU-Cluster Approach Development Project, citing the six clusters organized by BLGD in the provinces of Ilocos Sur, Isabela, Iloilo and Romblon. Director Mistal explained the initiatives done by BLGD in promoting the integrated area development approach through LGU clustering. She explained that the IAD approach has been adopted by DILG wayback in the early days when the community development was still the mandate of the Department. During this period, several initiatives were already introduced by the Department to promote total development in the communities.

The concept of One-Village, One-Product Movement had already been introduced in Philippine governance using different strategies: Masagana 99, Green Revolution and other related approaches and strategies. She also cited some best practices such as: Galing Pook Awards, Saving the Marikina River, Davao del Sur Milang, Munoz Nueva Ecija-Equipment Utilizing Underutilized Equipment, Victoria Housing, Sustained Development thru Integrated Approved Increased Government Partnership with NGOs/POs and Bulacan Historical Heritage. Japan, considering its basic principles on independence and creativity for global competitiveness can be adopted as a model country in promoting rural development. Adopting this strategy in the LGU-Clustering has been more meaningful, seeing its relevance and complementation with resource pooling for maximum utilization and unified direction.

With this note, she extended her gratitude to JICA for helping BLGD facilitate the In-Country Seminar. She said that JICA has truly become BLGD's effective partner in pursuing integrated area development in the country.

Message

Mr. Masaru Takimoto
JICA Representative, DILG-JICA Expert

In his message, Mr. Masaru Takimoto explained that through the efforts of BLGD-DILG and JICA, the In-Country Seminar on One-Village, One-Product Movement: A Strategy to LGU Cluster Development was made possible in Iloilo City. He believed that the One-Village, One-Product Movement is an effective strategy for the clusters to improve their development project anchored on entrepreneurship for rural development. Mr. Takimoto said his expertise is on regional development and he considers the cluster project to be in the threshold of regional development, if only their potentials and existing resources are harnessed and developed to the fullest. He was grateful that the In-Country Seminar was held as he considered this as an opportunity to interact with the mayors and local officials in the clustered LGUs, CALABARZON area and the DILG Provincial Directors.

He also encouraged the people of Oita Prefecture of Japan to come in the near future and assist in the promotion of One-Village, One-Product Movement for the benefit of the clusters. In closing, he looks forward for more project of the cluster that will be implemented.

At this juncture, he introduced the Assistant Resident Representative of JICA, Mr. Shigeki Fukuda.

Message

Mr. Shigeki Fukuda
Assistant Resident Representative
JICA Philippine Office

Mr. Fukuda explained the various JICA programs and projects they are implementing, in cooperation with the Philippine Government on the areas of Rural and Regional Development. JICA considers these as priority sectors supporting the municipalities in the pursuit of development under a decentralized local governance.

Mr. Fukuda informed the group that JICA Philippine Office dispatched Mr. Masaru Takimoto to assist the DILG in the implementation of their programs which have significant impact to effective local governance. He also explained that JICA receives numerous project proposals from 50 different municipalities, but only few of them are eligible for JICA cooperation, the DILG-LGU Cluster Project is one of those considered by JICA. The reason is that JICA sees that LGU cluster as an effective way of helping each other in promoting their products with the application of the concept of "One-Village, One-Product Movement" in Oita Prefecture, Japan.

Planning is very important to achieve development, according to Mr. Fukuda. Human resource development and capability building for municipal officials are also very important factors that can be fully developed. Thus, JICA appreciated BLGD's effort for conducting this three-day In-Country Seminar.

Message

Ms. Sayoko Goto

*Sr. Managing Director & Executive Director
International Centre Japan*

Ms. Sayoko Goto extended her gratitude for being invited to the In-Country Seminar and imparted her knowledge on improving clustered municipalities in this country through the One-Village, One-Product Movement. She also expressed her gratefulness for the adoption of the movement in the development process of LGU clustering. She emphasized her 20 years involvement on the One-Village, One-Product, in promoting practical activities designed to improve the quality of lives of their citizens. She cited the projects she has visited in the 2nd IAD Cluster of Iloilo, far more advanced than when they pursued the movement 20 years ago in Japan.

She informed the group that Secretary Jose Lina, then Governor of Laguna entered into an agreement with Oita Prefecture Governor Morihiku Hiramatsu in furthering the interest of One-Village, One-Product Movement in the country. Mrs. Goto also informed the participants that Governor Hiramatsu sent his best wishes to the Filipino people, with special instructions to do their "best to the Filipino people, for they are our brothers".

With support of DILG-Iloilo, the local governments units and DILG-BLGD, Ms. Goto was positive that this seminar will contribute to the overall development of LGUs in the country.

Briefing on the Mechanics/Overview of the Activity

*By: Ms. Priscella B. Mejillano
OIC-Assistant Division Chief
LADD, BLGD*

After the messages, Mr. Priscella.B. Mejillano gave the overview and mechanics of the activity. She explained the general purpose of the activity which was to consider the One-Village, One-Product Movement, as a strategy to LGU clustering in pursuing rural development within and among the clusters. She cited the efforts of both BLGD and JICA just to organize the 3-day In-Country Seminar and come-up with an integrated and unified approach for development within the clusters and prospective clusters.

Ms. Mejillano also briefed the participants on the administrative requirements expected from the participants.

REPORTS ON ADOPTION OF ONE-VILLAGE, ONE-PRODUCT MOVEMENT IN THE PHILIPPINE LGUs

After the briefing, concerned Mayors rendered their reports on the adoption/application of the One-Village, One-Product Movement in their respective LGUs.

The following Municipal Mayors who attended the Seminar on Rural/Regional Development on the "One-Village, One-Product Movement at Oita Prefecture, Japan last September 1999, shared their experiences and application of the learnings during the training:

- | | | | |
|----|---------------------------------|---|---------------------------|
| 1) | Hon. Marilyn B. Marquez | - | Mayor, Dinalungan, Aurora |
| 2) | Hon. Alice C. Fetalvero | - | Mayor, Calatrava, Romblon |
| 3) | Hon. Tomas Ricardo A. Tanjuatco | - | Mayor, Tanay, Rizal |
| 4) | Hon. Pablo V. Agapay | - | Mayor, Magdalena, Laguna |
| 5) | Hon. Benedict C. Calderon | - | Mayor, Roxas, Isabela |
- (Represented by Mr. Domingo P. Leal, MPDC)

In general, the Mayors had the following initiatives: 1) Aurora- Production of Coffee tied-up with their produce with Nestle Philippines; 2) Calatrava- Banana Production; 3) Roxas – the "Bagsakan" Center (Trading Market) for farm produce of the clustered municipalities in Isabela. In the case of Tanay and Magdalena their lands are very much suitable for agricultural production but more on environmental protection and tourism industry.

The following are detailed reports on the adoption of the One-Village, One-Product in the country.

A. *Hon. Marilyn B. Marquez*
Dinalungan, Aurora

Mayor Marquez attended the Seminar on One-Village, One-Product Movement in Oita Prefecture, Japan last September 1999, together with other mayors from Isabela, CALABARZON, Iloilo and Romblon through the Japan International Cooperation Agency (JICA).

1. Learnings/Insights

- Education is very much essential/foremost
- People's participation
- People's empowerment
- Self-reliance
- Sustainability of the program/project

2. Application to the Municipality

- *Meeting with the Governor*

Upon her return to the Province, Mayor Marquez had a meeting with the Governor to explain/discuss the concept of One-Village, One-Product Movement. Then in her municipality she had a meeting with her constituents and different organizations on what happened in Oita, Japan on One-Village, One-Product Movement.

- *Conduct of Barangay Meetings/Assembly*

The team of Mayor Marquez, together with her staff conducted Barangay Assemblies and explained to them the One-Village, One-Product Movement – the principles behind how Oita Prefecture become successful. The concept was very much accepted by the majority of the people in the barangays.

- *Planning*

At the Barangay, the Mayor, together with the Sanggunian Bayan members planned on what they are going to develop. The outcome of the planning sessions together with the people are:

- 1) Development of Bulawan Falls
- 2) LGU to take charge of roads leading to Poblacion to Bulawan Falls
- 3) Permanent Structures like kiosks, cemented stairs, etc., to be funded by Department of Tourism amounting to P800,000.00
- 4) Improvement/Beautification of the municipality with local officers Private Organizations (POs), Non-Government Organizations (NGOs) and Private Sectors (PS), the spirit of BAYANIHAN SYSTEM (helping each other without compensation)
- 5) Coffee Development :
 - Targeted 10,000 seedlings to be planned for one year.
 - Established 2 municipal nurseries for coffee and other high value crops.
 - Bought the seeds for NESTLE PHILIPPINES (initially 2 sacks) then for 6 months, they had 35,000 seedlings.
 - Planted about 31,000 coffee and within five years, the municipality must accomplish the target of 50,000 seedlings planted.

- The farmers are continuously planting coffee. The municipality has entered into a Memorandum of Agreement with Nestle Philippines that they will buy the harvest.

3. Problems Encountered/Difficulties

- Since Dinalungan, Aurora is a 5th income class municipality, it still lacks funds to implement such project
- Lack of basic infrastructures

B. *Hon. Alice C. Fetalvero Calatrava, Romblon*

1. Learnings/Insights

- Earth-Friendly Agriculture
- Sustainable Tourism
- Small-Scale and Multi-Item-Production Type Agriculture Production
- Agricultural Production and Distribution
- Structure of Agricultural Cooperatives

2. Application

The municipality, in coordination with the other cluster LGUs, implemented the following activities, supporting the One-Village, One-Product Movement.

- Kabuhayan sa *Sagingan* (Livelihood in Banana)
- Banana Festival
- Low Interest Rate Loan for Farmers
- Conduct Market Day Every Sunday
- Agri-Tourism Promotion
- Cooperative Development

3. Problems

- Lack of Rice Supply
- Limited Rice Field

C. *Hon. Tomas Ricardo A. Tanjauatco*
Tanay, Rizal

1. Post Training

- Assessment of Tanay's existing program and project
- Transfer of Technology

2. Implementation

- Selection of Project (Municipal Wide): Propagation of Ornamental Plants
Beneficiaries: Tanay Ladies Association (TALA) – women organization in nine (9) poblacion barangays composed of 1,500 members
- Execution of MOA on March 2001 among Rizal State College (RSC)- an agricultural college, Tanay Ladies Association – a non-government organization of the Municipality of Tanay
- Field Observation/Tour on April 18, 2001 at UP-Horticulture, Los Banos, Laguna

3. Changes brought about by the Project

The municipality conducted intensified program on beautification and environmental protection focusing on the conversion of biodegradable wastes into organic fertilizer

Benefits:

- Social responsibility of the community
- Provision of additional income for identified organization: the TALA's 1,500 members
- Complements clean and green project
- Beautifies the surroundings

4. Recommendations

- Improvement of the methods of marketing of various products
- Application of the strategies for global competitiveness

**D. Hon. Pablo V. Agapay
Magdalena, Laguna**

1. Plans for the Adoption of the Concept of One-Village, One-Product Movement

The Municipality of Magdalena has its own version of localized Food Security Program way back in 1995. Implementing the scientific way or modified version of the concept of One-Village, One-Product Movement, will happen gradually, so that the methods on food security will be adjusted to its operational mechanism. The only difference is that, it will be confined to crops and livestock component combined with high valued crops wherein selected farmers who will participate in each barangay are included in this mode of livestock, such as: swine, cattle and carabao.

The farmers will be allowed to borrow the needed amount for three hectares with their own choice and of the crops that will be handled by their own members of the family. The technical aspects needed by the farmers will be provided by the Municipal Agriculture Office. The Office of the Mayor will serve as overall coordinator of the program and in-charge in the marketing components of the whole program.

The institution building in every barangay will be a requirement, to help people organize themselves for increased production of crops and livestock. These different associations will be federated as Kilusang Bayan or Cooperative in the municipal level.

The Cooperative will serve as the marketing arm of all the products, irrespective of the barangays. The cooperatives will also be in-charge in the preparation of contracts between the institutional buyers and farmers association.

The office of the Mayor will create, form and organize the committee necessary in order to provide the technical expertise needed by the cooperative.

2. Operational Strategy

In order to attain the specific goals and targets, all the financial institutions, which provide assistance to various sectors of the community have been centralized and implemented into one direction.

The municipal government implemented the Barangay Integrated Development Approach for Nutrition Improvements (BIDANI) Approach which launched a micro-credit lending to various mothers of targeted malnourished children. The specific projects depend mainly on the technical know-how of the recipients. At present, 200 mothers benefited from the project amounting to P1.5 Million in seven (7) barangays.

The Magdalena Operators and Drivers Association had been granted with a loan amounting to P176,000.00 to the 44 mothers at P4,000.00 each. After repayment for 16 weeks, they are able to apply again, with a total release of P200,000.00 to the association.

The municipal loan assistance for Food Security has expanded the program repayments. The amount is increased to P1.2 Million thereby increasing the number of farmers who availed the loan scheme.

These projects and potential schemes focusing on rural development will help the municipality attain the concept of the One-Village, One-Product Movement. This approach could simplify the different strategies such as institution and capability building, financial and project packaging, entrepreneurship among farmers which could bring the farmers-borrowers and cooperation into self-reliant communities.

*E. Hon. Benedict C. Calderon
(Reported by Mr. Domingo Leal)
Municipal Planning and Development Coordinator
Roxas, Isabela*

1. Learnings in the Training (Oita, Japan)

The seminar provided the participants with information and economic development of clustered areas by way of the "One-Village, One-Product Movement". The application of that concept ignited the development of the clustered areas in Oita Prefecture in Japan where no two villages produces the same kind of product at one time, so that there will be no over supply of one particular product in the market, that way, the command for better prices are maintained.

2. Application of These Learnings in the Municipality

In Roxas, Isabela there were two points on the adoption of the One-Village, One-Product Movement concept.

- Considering that rice is the principal agricultural product of the municipality, where almost all agricultural land in the locality are for rice production, the inclusion of rice crop in the "One-Village, One-Product Movement" is impractical and next to impossible.
- The "One-Village, One-Product Movement" is for vegetable production, livestock production and other industries like bamboo crafts, etc.

3. Plans for Further Improvement/Development of the Municipality

The local government is contemplating on introducing the "One-Village, One-Village Movement" when the proposed Trading Center and cold storage should have been finally realized and made operational specifically for vegetable production and possibly livestock production. It is believed that it will take long for the farmers to finally accept the concept.

The application of this concept in this way may only be applicable to clustered barangays in the Municipality of Roxas, and perhaps, there is a need to modify the concept.

Instead of the "One-Village, One-Product" concept it may be more appropriate and perhaps more acceptable if it will be "One-Cluster, One-Product Movement" concept.

If the municipality is to expand the area coverage of this concept similar to the concept of clustering in Oita Prefecture, it may be applied to clustered municipalities in one province, and , under the Province of Isabela, this may be applied to the already organized clustered municipalities in the 2nd District of the Province called AMALOG II.

LECTURES

Discussion on "One-Village, One-Product Movement" of Oita Prefecture, Japan

by: *Ms. Sayoko Goto*
Executive Director & Sr. Managing Director
Oita International Center

Ms. Goto first introduced Oita Prefecture which they called the "Land of Abundance", its location, land area and population.

She explained that the movement was conceptualized during the term of Governor Morihiro Hiramatsu. After hearing the complaints of the people about this situation and various demands on infrastructures, etc., Governor Morihiro Hiramatsu introduced the "One-Village, One-Product Movement". This was done shortly after Governor Hiramatsu was elected in 1979. She also mentioned that while institutionalizing the movement, they are, at the same time working on "*Technopolis Plan*" in which high technology and knowledge-intensive industries provide impetus to reform the traditional economic structure, and the "*Marinopolis Plan*" which aims to promote resource-controlled fisheries, marine product processing industries and sight seeing industries.

The philosophy behind the "One-Village, One-Product Movement" was to encourage the people to create some specialty products of their area and stimulate competition in a positive sense among people in different districts. Since people have developed such diverse traditions and cultures, they have created unique products representative of their towns and villages and competed with one another in these activities for regional revitalization.

In her presentation, she said that Oita's "One-Village, One-Product Movement" was founded on three basic principles and these are: 1) think globally, act locally, 2) independence and creativity and 3) fostering human resources.

The first principle of the movement: "*think globally, act locally*" is more on targeting the world for production. There was a need to develop certain products through improved technology in order to make them globally acceptable and competitive. Potential resources could be locally developed with the added-value of refining the products.

The principle of "*independence and creativity*" encouraged people to help themselves first, before Oita Prefecture can do something. The prefecture positively supported those municipalities which organize the movement on their own initiative and helped those motivated towns by providing them with technical guidance and support for research and development. In this situation, the prefectural government did not issue order or mandate its people what they want to pursue, but instead encourage their people for positive change and practice whatever is best. Further, the *Governor* is on top of *marketing* and *promoting products*, such as on *TV Advertising* in Tokyo and in other places. For this reason, the *Oita Isson-Ippin Company* which specializes in the wholesaling of and retailing of the "One-Village, One-Product Movement" goods was founded.

On the third principle of the movement, "*Fostering Human Resources Development Activity*" she cited some fine examples on regional development that happened in Yufuin and Oyama towns. The movement spearheaded initiatives to develop municipalities. These leaders practiced what they learned on the principle of thinking globally, acting locally for global competition of their products. The Prefecture learned that practice is vital for the ultimate goal of the movement, hence, the Oita "*Land of Abundance Training Schools*" was established which emphasizes "*practice*" - with the school motto "Broaden horizons through independence and voluntary efforts". The concept reached the young people, motivating them to carry out practical activities in solving community problem which are very vital in community development.

Briefly stated, the 3rd principle emphasizes on manpower as a key to the revitalization of their municipalities. The Prefecture strives to effectively bring out the motivation and energy of young people in each district and make the most of this energy for regional development activities. – thus, young people have global aspirations with the scope of their activities tightly rooted to their communities.

Ms. Goto also discussed to the group the worldwide efforts of Oita Prefecture to reach out to the world and spread the "One-Village, One-Product Movement." Various countries covered are: China, Malaysia, Indonesia, the Philippines and even the United States.

Many LGUs want to invite investors as sale policy to promote development in their localities. But the movement shows there is an effective alternative for the policy to accelerate local development.

Discussion on LGU-Cluster Development Approach Project Updates, Challenges and Response

By: *Ms. Priscella B. Mejillano*
Acting Assistant Division Chief
LADD, BLGD

Ms. Mejillano discussed the LGU-Cluster Development Approach Project concepts, advantages, criteria and objectives on clustering LGUs, its Updates, Challenges and Responses of BLGD on such challenges.

She explained that the project was developed and implemented by the Bureau of Local Government Development (BLGD) to strengthen and operationalize the provisions of Sections 16 and 17 of the Local Government Code of 1991 (Republic Act 7160), on delivery of basic services and facilities, and Section 33 and 35 of the Local Government Code of 1991, Article 61, Rule XII of the Implementing Rules and Regulations (IRR) of Republic (RA) 7160, Section 13, Article X of the Philippine Constitution, and other related laws on consolidating and coordinating LGU resources for purposes commonly beneficial to them.

She cited some important points to consider in clustering LGUs to fully achieve the mission, vision, goals and objectives of the clustered municipalities. The concept provides opportunity to organize and manage their own resources and participate actively in planning the development of their communities. She emphasized that in clustering, it needs at least 3 to 7 adjacent LGUs from 4th-6th income class municipalities, and that political leaders must be willing to harness/pool their available financial resources, machines, equipment and manpower to implement common interest, needs and aspirations. Clustering, according to Ms. Mejillano, promotes cooperativism among the member-municipalities and provides opportunity to participate actively in planning the development of their communities.

She also explained the implementation process of the clustering, its organizational structure and the roles and responsibilities of the DILG national, regional, provincial and municipal levels. In the same lecture, she shared the concept of the "One-Village, One-Product Movement" which can be adopted, as a strategy for rural/regional development through resource integration, product packaging, marketing and investments.

As to the status of the project, she informed the group that there are now six (6) clusters, comprising of thirty-four municipalities from the provinces of Ilocos Sur, Isabela, Iloilo and Romblon.

Ms. Mejillano also cited the major milestone of the project:

- Technical assistance in cluster planning workshops; orientation/re-orientation briefings; and advocacy on adoption of One-Village, One-Product Movement in Clustering LGUs
- Capability building programs through conduct of Seminar on One-Village-One-Product Movement"

- Materials development in order to provide information materials, references in clustering, such as: Guidebook on Clustering LGUs, Processes and Strategies; Handbook on Project Proposal Packaging, Technical Writing and JICA Technical Assistance and Grant Aid Program; Flyer on LGU Cluster Approach Project and Profile of LGU Cluster Development Project through JICA funding
- Conduct of regular technical and monitoring in the provinces through documentation of LGU-Cluster initiatives and In-depth Study on Rural Development for Enterprise Improvement in the clustered municipalities

She also admitted that in project implementation, BLGD encountered several problems, and that, BLGD is trying its best to address the following concerns:

- Lack of resources/focus
 - Prioritize/Re-focus of Plans, Programs and Activities
- Unclear Roles (Central, Regional, Provincial)
 - Re-define scope of responsibilities
 - Re-planning, re-visioning
 - Streamline certain operational procedures
- Lack of Unified Directions
 - Orientation/re-orientation briefings with emphasis on unity and Cooperativism
- Minimal involvement of NGO/PO/PS
 - Advocacy on establishing definite mechanisms to make them part of the decision-making as well as implementation process
 - Capacitate DILG and LGU officials on cooperative undertakings, NGO/PO partnership and other related activities
- Lack of technology for product packaging, marketing, investments
 - Propose for capability building activities
 - Strengthen linkages with NGAs-TLRC, DTI, DA, DOST and research institutions
 - consultative meetings/Plans of Action
 - memorandum of agreement
- DILG legal opinion on resource pooling
 - SB resolutions or ordinances
 - Specific statements in the MOA

She explained that BLGD is looking forward to bright prospects of the clustered municipalities and for LGUs who may wish to organize their cluster through the following strategies:

1. Replication and Expansion
2. Capacity/Capability Building Activities through related Training Programs
3. Research Studies
4. Information Exchanges among Clusters and with other organizations on investments, marketing and relevant technologies with a possibility on Digitalization of Clustered Municipalities (Internet)
5. Capital Grant Aid Packaging for agricultural and infrastructure facilities for LGUs adopting the One-Village, One Product Movement

AWARDING CEREMONIES/COCKTAILS

In the evening, a special program was held in honor of the outgoing and former mayors of the 2nd IAD Cluster of Iloilo. Gracing the affairs was Governor Niel Tupas of Iloilo. In his message, Governor Tupas acknowledged the approach on LGU clustering which, he said, would be potent in promoting development in the province. He said, by pooling and maximizing LGU resources, major undertakings will be implemented, onwards to unified development directions.

The incumbent mayors of Iloilo also gave their respective messages, acknowledging the efforts of the former mayors in pursuing the cluster approach. They were one in giving their commitments to sustain the cluster project in the province.

The following are former mayors of the cluster who were awarded with plaques of appreciation:

- | | | | |
|----|------------------------|---|----------------------|
| 1. | Mr. Jone P. Sabidong | - | Sta. Barbara, Iloilo |
| 2. | Mr. Romulo C. Cabana | - | Leon, Iloilo |
| 3. | Dr. Mary Lou B. Alipao | - | Alimodian, Iloilo |
| 4. | Mayor Avito Saclauso | - | San Miguel, Iloilo |

Ms. Sayoko Goto was also awarded with plaque of appreciation for her advocacy on One-Village, One Product Movement of Oita Prefecture in the clustered LGUs.

PRESENTATION OF FINDINGS ON THE IN-DEPTH STUDY ON RURAL DEVELOPMENT FOR ENTERPRISE DEVELOPMENT IN THE CLUSTERED MUNICIPALITIES

By: *Emmanuel M. Luna*
Professor
College of Social Work & Community Development
University of the Philippines
Diliman, Quezon City

Dr. Emmanuel M Luna, of the College of Social Works and Community Development of the University of the Philippines and Head of the Research Team presented his findings and analysis regarding the study in Iloilo, Ilocos Sur, Isabela and Romblon on the following areas:

1. On the LGU Cluster Development

- The Cluster approach is anchored on the empowering paradigm that can harness the LGU development.
- There was a strong local initiative by the LGUs in pursuing the Integrated Area Development Approach.
- The Technical Working Group members believe in the role of the Local Chief Executives in sustaining the Cluster Project Initiatives and knowledge on the Cluster Project depends on interpretations. LCE should have the initiative to innovate and learn from experiences through people empowerment and involvement on the program to sustain the program. There must be less politics in the cluster and institutionalize it to grow.
- There is a clear and ample understanding and appreciation of the cluster development approach among the various LGU officials and staff. Without recognizing its importance, people will do nothing.
- The conceptual design, processes and guidelines are all provided by the project as well as the input for planning.
- The government officials and staff consider the technical training and assistance as the most significant inputs of the program to the cluster.
- There is a need for a constant guidance by the regional and provincial offices for the local government executives to focus and give more attention on implementing projects for the welfare of their constituencies.
- There is a need for LGUs to complement each other, rather than compete. They should go down and assist communities and complement their resources to community needs. The Cluster should also assist/give support to their projects such as the Tilapia Hatchery in Sta. Barabara.

- There are certain operational procedures that have to be streamlined in the process of institutionalizing the Cluster. The Cluster should lay down policies and procedures for project to prosper.
- The formal organizational structure of the IAD, which is a major component of the system, has to be streamlined if it has to make its institutional presence felt. Mayors are already Managers in their municipality, so they are too busy to attend the details of the cluster activities. Technical staff have to be tapped to attend to the details of the activities.
- The personnel and the staff working for the cluster show interest and commitment to the cluster project. Some, though, consider as an additional assignment to them.
- Even without money, the cluster activities can still go on by collectively doing a resolution that is applicable to all the members of the cluster like the CUMILOS Cluster in Ilocos Sur.
- There is a very minimal involvement of the NGO in the cluster, although the Local Government Support Project of Canadian International Development Agency (LGSP-CIDA) provided support to the projects of the 2nd IAD.

2. On Rural Enterprise Development

- The Cluster is still in the infancy stage of undertaking rural enterprise projects.
- The Area Management Approach to Local Governance (AMALOG) Clusters in Isabela can access fund through the cluster, but project are implemented separately by each member of the Cluster.
- The Integrated Area Development (IAD) pool their resources and implement the project as one group Quezon, like in Quezon. Isabela is a recipient of Afro-Asian Rural Development Organization (AARDO) funds for the Feedlot Cattle Fattening and Dispersal Project which is a big help to them.
- Other rural enterprises and production such mango, bamboo craft, inland fishing, vegetable farming and the like already exist, but still need the assistance of the cluster. Production of mango and bamboo craft are independently grown. The cluster help them in processing, marketing and how to harness them.
- The projects of the cluster, as well as rural enterprises are all resource-based. There is local demand for product, as well as resource availability.
- The skills and knowledge of rural enterprises are experience-based, meaning they acquire these from their practice. Entrepreneurs are interested in improving their technology.
- Products need value added. Entrepreneurs need new technology on product processing and technical trainings

- Integration of cluster plans to the provincial development plan should take into consideration.
- Various agencies are not very familiar with the program. There should be awareness on the concept of cluster through proper coordination and dissemination.
- Capital inputs remain problematic among the entrepreneurs
- Rural enterprises have no control of the prices of their goods, since they are not organized. There is high production of supply but prices are low. No storage facilities for excess produce within the cluster.
- The cluster project has yet to create a significant impact on the lives of the people.

3. Recommendations

A. Towards Strengthening of the Cluster Development Approach

- Ensuring common assets
- Creating direct impact to the municipalities
- Follow up project proposals
- Enhancement of DILG assistance
- Streamlining of organization set-up
- Capability building
- Enhancing NGO/PS participation
- Review of legal basis on pooling of resources

B. Towards Enterprise

- Production development
- More credit facilities
- Organization of producers
- Capability building to produce specific product
- Establish linkage between the cluster and the various support institution
- More specific procedures for project operations
- Complementary projects among the cluster members

ACTION PLANNING

After the open forum on the presentation of findings of the In-Depth Study, a workshop on action planning aimed to determine the felt need of each participants to adopt/apply the concept of "One-Village, One-Product Movement", as a strategy for LGU-Cluster Development Approach followed. Selected participants presented their re-entry plan in their areas of coverage.

Please see Annexes for the group's Plan of Action.

OPEN FORUM

Question: Were there resistance in the advocacy of the One-Village, One-Product Movement?

Answers:

Mayor Marquez:

None, because we resorted to intensive advocacy. We know that whenever there's change, there's resistance. Problem then was the market. When coffee was introduced as part of the "One-Village, One-Product" we tried to tie-up with Private Sector (PS) and National Government Agencies (NGAs). When people saw there were chances of marketing, they were inspired.

Mayor Agapay:

There was resistance because of that dole-out mentality of our people. It is difficult. But intensive advocacy is needed.

Question: What is the relevance of "One-Village, One-Product Movement" to LGU-Cluster Development Approach Project?

Answer: The One-Village, One-Product Movement is very relevant to the cluster project, considering its parallelism to rural/regional development. Both are anchored on independence, creativity and global competitiveness. The One-Village, One-Product Movement can be attained as one strategy to attain the common and unified direction for development.

Question: What is the participation of the legislative body to the cluster?

Answer: The legislative body in the cluster play an important role in legitimizing the projects and activities of the cluster. They are involved from phase one to last. In the issuance of resolution/ordinance, authorizing the mayors to enter into a contract with the other cluster members is lodged with the legislative body. They also play a crucial role in approving and adopting the cluster plan by integrating it in the Local Development Plans, and allocating funds thereof.

Question: Are there criteria for selection of the 2nd IAD cluster in Iloilo, as the host of the In-Country Seminar? How were the participants selected?

Answers: First consideration was the existing projects in the cluster of Iloilo. Such projects are private-sector driven as they are ran by local entrepreneurs. The management of BLGD, as well as JICA were one in the agreement that Iloilo could be a good venue to show case the projects which are relevant inputs for the One-Village, One-Product Movement.

Secondly, there was this survey on level of interest of DILG Provincial Directors on the One-Village, One-Product Movement. JICA, through BLGD, distributed questionnaires to all DILG Provincial Directors nationwide to get their responses on their willingness to learn about and adopt the One-Village, One-Product Movement in their respective areas of coverage. We chose the participants based on their responses.

Thirdly, was the expression of interests by some DILG Provincial Directors to adopt the LGU-Cluster Development Approach Project. These were the basis for replication/expansion of the project thru the Provincial Directors from Misamis Oriental and Bukidnon of Region X, Southern Leyte of Region VIII, Apayao and Kalinga of the Cordillera Autonomous Region, and Tarlac of Region III. We hope that through these Provincial Directors, the LGU-CLAP will be accelerated.

Question: What could be the primary factor that institutionalize the "One-Village, One-Product Movement of Oita Japan? Was it cooperation? Determination? Political Leadership of Governor Hiramato? Political Stability?

Answers: One success factor of One-Village, One-Product Movement is through total change of attitude of the people. We know that people are clamoring for a thorough change for the betterment of their lives, so that is where we drove most. Second is human resources development in the province. One-Village, One-Product takes primordial concern on developing human resources by establishing Land of Abundance Training School for young people. We inculcated into the minds of our young people the importance of setting their minds for global competitiveness with their activities rooted at the local level. This is following the principle of "*think globally, act locally*". After graduation from Land of Abundance Training School, we encourage young people to play leading roles in the regional development in their respective municipalities. The success of the movement perhaps is also due to our strong emphasis on the importance of an independent attitude in regional development projects which should be implemented on the basis of their own ideas. We'd like to believe that Oita Prefecture was able to bring out motivation and energy of young people in each district, and depend on their initiative and practice. The prefectural government provides them support mechanisms like research and development and technical guidance. All these, and more factors are believed to be major reasons why the One-Village, One-Product Movement is sustained.

Question : In the Philippines , Local Chief Executives and officials are limited to 3-year term. This could be the reason why implementation of projects are not sustained. What is your comment on this?

Answer : I cannot give comments on the 3-year term of the Mayors in the Philippines. Japan has different system of governance. Governor Hiramatsu, for example, has been Governor since 1970, and until now, so, he was able to institutionalize the movement. But then, perhaps, it's not on the limitation of the term, but more on the significance of the program, its relevance to economic empowerment of the people that will sustain any project or program. If the program shows significant impact on the lives of the people, the incoming Mayors can continue the implementation of the project.

Question : What extent can JICA provide assistance to the cluster?

Answer : JICA can assist municipalities depending on the situation of each of the Cluster. It is important, though, that requesting municipalities, like the cluster adhere to the procedures on JICA Technical Cooperation Program. It must be clear that JICA is not a funding institution. It extends technical cooperation program to municipalities which have priorities for economic development. JICA manuals have already been distributed to the clusters, so it is best if the municipalities refer to that and see if they could qualify for technical cooperation programs offered by JICA.

Question : How can DILG assist the AMALOG?

Answer : The clusters can have their proposals and submit through the DILG-Provincial Office, then forwarded to the DILG-Regional Office for their review before such proposals be submitted finally to Central Office. The Central Office will do appropriate actions like comments and technical assistance, and this will be coursed through the Regions and back to DILG-Provincial Office. The province will now deliver the action to requesting municipalities/cluster. The role of BLGD is to conceptualize the project and provide appropriate technical assistance. The Region advocates the project and the Provincial-DILG implements the project. We believe the provincial office plays a big role here.

Question : In the study, was political factor considered? How can this be solved?

Answer : LGU-CLAP should be more liberated from politics, since this is a development program, like the red cross LGU-CLAP should be institutionalized despite the presence or absence of Mayors. This is not a political program. This is a developmental program designed to legitimize operations through the executive & legislative. DILG can go to the Governor, conduct consultation/briefings and pursue the cluster project.

Question : Is there a comparative Study between the LGU Cluster Approach and Metro Manila Development Authority (MMDA)?

Answer : There are single studies, but not comparative. Example is the Study on National Cooperative Integrated Area Development (NACIAD) program. Metro Manila Development Authority (MMDA) is a single entity now a quasi-judicial. Metro Manila is a semi-government corporation.

Question : Can NGO become a manager?

Answer : Depends, if they are willing to bear the burden at no cost. But actually, there can be a problem. There's gonna be an issue on power and authority since NGOs can't just tell the Mayors to "do this" or just "do that."

Question : Knowing all the problems in the study, to what extent does JICA provide assistance to the Clusters?

Answer : JICA can assist, but depending on what each cluster really needs to develop their areas. Then JICA can come in. Japanese entrepreneurs could get supplies from the cluster.

Question : Can the municipalities just submit a prioritized list of projects to JICA, so they can get assistance?

Answer : Other clusters survived without external funding. LGU-CLAP is espousing the significance of self-help for rural development.

Question : How can the Cluster Management Board (CMB) be sustained/made fully functional in policy-decision making?

Answer : In the CMB, the NGO representative can be a voting member, with the DILG Provincial Director and DILG Regional Director as ex-officio members. This way, even if there's a change in leadership, the CMB, as a policy-making body can sustain the operation of the cluster even after the terms of Mayors, or until such time that new mayors come in.

Question : AMALOG I is a pioneering cluster, yet it still needs concrete and definite projects that can really develop the municipalities involved.

Answer : There is really a need to define the roles of BLGD as proponent, and the DILG regions and DILG provinces in the implementation of LGU-CLAP. It has been explained before, but then, there is a need to re-think the implementation of the project and thresh out internal concerns within the DILG-BLGD, the regions and the province.

Question : Based on the report on In-Depth Study, there is a need to streamline. What's the specific definition of this, so, IAD-Iloilo can streamline?

Answer : This means that an Area Manager, if he/she is not a Mayor, but rather, a functionary, then he/she can also do some administrative operations. There's a need to define clearly the role/extent of the responsibility of the Area Manager, considering that he/she is an action person in the cluster.

Question : It is obvious that the cluster approach can easily be subjected to politics. How can we ensure that it will be minimized?

Answer : In addressing the concerns and issues, the LGU-Cluster Approach should be liberated from politics. Clustering can only be institutionalized through this. All mayors should be conscientious on addressing development concerns in their municipalities, rather than pursuing their political colors. The strength of 5 is much better than 1, and that, they should be united, regardless of their political affiliations.

Question : In the case of Isabela, can DILG conduct a reorientation-briefing among the clusters, giving emphasis on sustaining the project through pooling of resource.

Answers :

- a) Coordinate with Provincial Government so that project implementation can be anchored on the development framework of the province.
- b) The Area Manager should be full-time, to attend to day-to-day operations. If the Mayor is the Area Manager, he cannot attend to administrative matters, and other trivial things.
- c) Emphasize that LGU-CLAP is private-sector driven. There's a need to involve Non-Government Organizations and Private Sectors in the implementation of the cluster projects.
- d) There should be proper delineation between the executive role of the Mayors in their respective municipalities, and as policy-making body in the CMB. The former speaks of a mayor's role as an individual manager, while the latter speaks of his role as member of a collegial body for unified development.

V 平成 13 年度アセアン地域特設「一村一品運動セミナー」
研修計画

1. コース名

和 文：アセアン地域特設 一村一品運動セミナー

英 文：Seminar on One Village, One Product Movement

2. 受入期間

平成13年8月20日～平成13年10月7日（49日）

3. 定 員

10 名

4. コースの背景と経緯・目的

本コースは、アセアン諸国における地方分権化や都市と地方部との経済格差拡大に伴い、地域振興を担う行政官の育成が急務とされる状況の下で1998年度に設立された。

研修では、我が国の地方自治体を持つ地域振興の経験及びノウハウを、主に大分県が実施してきた「一村一品運動」の実例を通じて学び、各国の地域振興政策へ活用することを目的としている。

5. 到達目標

- (1) 日本の地方自治制度の特徴及び地域振興の理論的背景を理解する。
- (2) 「一村一品運動」の事例を通じて地域振興における行政の役割を理解する。
- (3) 参加型調査手法ワークショップやグループ討議を通じて自国の地域振興における新たなアイデアを見つけ出す。

6. 研修内容

研修科目	ねらい及び指導方法	日数			
		講義	実習	発表/討議	視察
ジェネラル・オリエンテーション (日本紹介) 1. 社会と人々 2. 経済 3. 歴史・文化 4. 政治 5. 教育	日本についての基礎知識を養う。	2			0.5
コース・オリエンテーション	研修の目的と各科目の位置付けを確認する。	0.5			
ジョブ・レポート発表会及び討議	各研修員の地域振興における取り組みを発表し、各自の研修目標を明らかにする。			1	
導入研修 1. 農村開発及び内発的発展論 2. 日本の地方行財政制度	内発的発展の歴史と理論を学ぶとともに、一村一品運動の背景にある地方自治制度を理解する。	1.5			
日本語集中講習	日常生活に必要な日本語を習得する。	3	3	1	
大分県知事表敬開講式	大分県知事、大分県職員と面談する。				1
大分県の行政 1. 県勢概要 2. 一村一品の推進 3. 流通戦略 4. 観光振興	大分県の政策と戦略を学び、関連施設を視察する。	2			1.5
一村一品事例研究 1. 観光：湯布院町 2. 漁業：佐賀関町、上浦町 3. 環境：久住町 4. 農業/農協：大山町、天瀬町	各町による地域資源の活用について学ぶ。 農協の組織や役割について学ぶ。	4			5
交流プログラム 1. ホームステイ（天瀬町） 2. 稲刈り祭（浮羽町）	日本の人々と交流し、日本文化を体験する。		1		2
PRA/PLA ワークショップ 1. PRA/PLA の概要 2. フィールドワーク（浮羽町） 3. グループ発表・討議	参加型調査手法についての知識を養い、地域振興のプランを作成する。	0.5	1	1	
研修のまとめ 1. 講義：一村一品運動の経済効果 2. 討議：一村一品運動の活用	研修を通じて学んだ一村一品運動による地域振興政策の概念を、自国の状況に照らし合わせてどのように適用できるかを検討する。	0.5		0.5	
評価会閉講式	研修員から研修に対する意見や提案を受ける。			0.5	
合計（33日間）		14	5	4	10

7. 研修参加資格要件等

(1) 参加研修員の資格要件

- ア. 地方自治体の行政官で地域開発・振興の企画／実施に携わる者
- イ. 大学卒業もしくは同等の学力を有すると認められる者
- ウ. 30才以上50才以下の者
- エ. 英語が堪能な者（TOEFL500点、ケンブリッジ英検一級以上程度が望ましい）
- オ. 心身共に健康な者（妊婦はのぞく）
- カ. 軍に所属していない者

(2) 人選方法

本コースの応募要領（G.I.）に基づき、各国政府から提出された要請書により、資格要件や提出書類を総合的に検討し、国際協力事業団及び研修指導者、(財)大分県国際交流センターが協議して選考する。

(3) ジョブレポート

各研修員には、自国における当研修課題関連の現状と問題点に関するジョブレポートの作成が義務づけられている。同レポートは、選考の際の資料として用いられるほか、研修開始時に各研修員によって発表・討論される。

8. 研修実施体制及び運営

本コースは、国際協力事業団及び研修指導者、(財)大分県国際交流センターが協議の上、実施運営するものとする。コース運営上、検討事項が生じた場合には、これら関係者間で協議を行うものとする。

- ・ 国際協力事業団 九州国際センター（JICA-KIC）

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1

TEL 093-671-6311

FAX 093-671-0979

- ・ 研修指導者 西川芳昭（久留米大学経済学部助教授）

- ・ 財団法人大分県国際交流センター

〒870-0047 大分市中島西 3-1-7

TEL 097-538-5161

FAX 097-538-5162

別添1 研修日程表

平成13年度 一村一品運動セミナー日程表

月 日	時 間	内 容	研修機関・講師等	宿 泊
8月20日(月)		来日(北九州)		K I C
8月21日(火)		ブリーフィング	K I C	"
8月22日(水) 8月24日(金)		ジェネラルオリエンテーション (日本紹介)	K I C	"
8月25日(土)	休 日			"
8月26日(日)	休 日			"
8月27日(月) 9月4日(火)		日本語集中講習	K I C	"
9月5日(水)	午 前 午 後	コースオリエンテーション ジョブレポート発表会(前半)	西川コースリーダー K I C 眞島	"
9月6日(木)		講義「日本の地方行財政」	久留米大 世利教授	"
9月7日(金)	午 前 午 後	講義「内発的発展と地域資源」 ジョブレポート発表会(後半)	西川コースリーダー 西川コースリーダー K I C 眞島	"
9月8日(土)	休 日			"
9月9日(日)	午 後	移動(北九州市→大分市)		小田急センテ ュリー大分
9月10日(月)	午 前 午 後	大分スポーツ公園メインスタジアム視察 立命館アジア太平洋大学(APU)視察	働大分県国際交流センター	"
9月11日(火)	午 前 午 後	開講式・オリエンテーション 講義「県勢の概要」 大分県知事表敬	働大分県国際交流センター 大分県庁	"
9月12日(水)	午 前 午 後	講義「一村一品運動」 講義「一村一品の流通戦略」	働大分県国際交流センター 大分県流通園芸課	"
9月13日(木)	午 前 午 後	大分県農水産物加工総合指導センター きこの研究指導センター	三重町 緒方町	"
9月14日(金)	午 前 午 後	講義「湯布院町の地域振興策」 町内視察	湯布院町 由布院観光総合事務所	"
9月15日(土)	休 日			"
9月16日(日)	休 日			"
9月17日(月)	午 前 午 後	講義「大分県の水産振興策」 佐賀関漁港視察	大分県 佐賀関町	"
9月18日(火)	午 前 午 後	マリンカルチャーセンター視察 大分県海洋水産研究センター視察	蒲江町 上浦町	"
9月19日(水)	午 前 午 後	大分県畜産試験場視察 久住花公園視察	久住町	"
9月20日(木)		講義「大山町農協の概要」	大山町農協	日田ソシア
9月21日(金)	午 前 午 後	農協関連施設視察 畦道グループ食品加工組合視察	大山町農協 天瀬町	"
9月22日(土) 9月23日(日)		ホームステイ	天瀬町	ホストファミ リー宅

月 日	時 間	内 容	研修機関・講師等	宿 泊
9月24日(月)		移動(日田→大分)		小田急センチュリー大分
9月25日(火)	午 前 午 後	大分市内青果市場等視察 講義「一村一品株式会社の概要」	(助)大分県国際交流センター トキハデパート	〃
9月26日(水)	午 前 午 後	大分農業文化公園視察 二階堂酒造工場視察	(助)大分県国際交流センター	〃
9月27日(木)	午 前 午 後	大分県竹工芸・訓練支援センター視察 別府市竹細工伝統産業会館視察	(助)大分県国際交流センター	〃
9月28日(金)	午 前 午 後	大分香りの森博物館視察 送別会	(助)大分県国際交流センター	〃
9月29日(土)	午 前 午 後	棚田オーナー収穫祭: 稲刈り体験 移動(浮羽町→北九州市)	浮羽町	北九州市内ホテル
9月30日(日)	休 日			〃
10月1日(月)	午 前 午 後	移動(北九州市→浮羽町) 講義「PRA/PLA ワークショップ概要」 講義「町政概要」 町内視察、グループディスカッション	西川コースリーダー 浮羽町	浮羽町内宿泊施設
10月2日(火)	午 前 午 後	PRA/PLA 実習1(町内調査) PRA/PLA 実習2(資源ランキング作業、発表、マッピング)	浮羽町、西川コースリーダー、ファシリテーター	浮羽町内宿泊施設
10月3日(水)	午 前 午 後	アクションプラン作成、報告会 ワークショップ総括 講義「一村一品運動の経済効果」 移動(浮羽町→北九州市)	浮羽町、西川コースリーダー、ファシリテーター 久留米大 大矢野教授	北九州市内ホテル
10月4日(木)		希望研修		〃
10月5日(金)		評価会 閉講式	西川コースリーダー K I C 眞島 (助)大分県国際交流センター	〃
10月6日(土)		帰国準備(一部帰国)		〃
10月7日(日)		帰国		

VI 平成 13 年度フィリピン国別特設「地方自治クラスター活性化セミナー：一村一品運動」研修計画

OUTLINE OF THE TRAINING COURSE

COURSE TITLE (No.)	Seminar for Municipal Mayors of Clustered LGUs: One Village, One Product Movement (J01-20223)
COURSE OBJECT	The main purpose of training course is to introduce the history and administrative mechanism of "One Village, One Product Movement" in Oita Prefecture to the leaders of LGUs and higher officials who are in charge of Cluster Development Approach in Philippines.
DURATION	October 15, 2001 – October 28, 2001 (14 days)
DEADLINE FOR APPLICATION	September 10, 2001 * for acceptance of JICA office in Philippines
LANGUAGE	English
COUNTRIES	Philippines
NUMBER OF PARTICIPANTS	5
REQUIREMENT FOR APPLICATION	Applicants should: <ol style="list-style-type: none"> 1. be nominated by their government in accordance with the formal procedures, 2. be recommended by Department of Interior and Local Government (DILG), 3. be mayors of Clustered LGUs or LGUs which will take Cluster Development Approach, or higher officials who are in charge of Cluster Development Approach in DILG. 4. be in good health, both physically and mentally, to undergo many field trips during the course.

<p style="text-align: center;">TRAINING INSTITUTION</p>	<p>Oita International Center Address: 3-1-7 Nakashima-nishi, Oita-shi, Oita, 870-0047 JAPAN Tel: +81-97-538-5161 Fax: +81-97-538-5162 URL http://www.oitaweb.ne.jp/oitaintl/</p>
<p style="text-align: center;">CURRICULUM</p>	<p>1. Lecture of One Village, One Product Movement 2. Case Study in Oyama Town, Yufuin Town and others 3. Discussion with Mayors of cities/towns in Oita * Participants are requested to bring necessary information of rural/regional development in their LGUs for the discussion.</p>
<p style="text-align: center;">ACCOMMODATION</p>	<p>1. Kyushu International Centre (KIC), JICA Address: Hirano 2-2-1, Yahata Higashi-ku, Kitakyushu city, 805-8505 JAPAN Tel: +81-93-671-6311 Fax: +81-93-671-0979 URL http://www.jica.go.jp/branch/kic_e/index_e.html 2. Hotels in Oita Prefecture</p>
<p style="text-align: center;">ALLOWANCES & EXPENSES</p>	<p>The Government of Japan provides the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations.</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan ● Accommodation allowance ● Living allowance ● Free medical care for participants who become ill after arrival in Japan (Costs related to pre-existing illness, pregnancy and dental treatment are not included) ● Others (Outfit allowance, Book allowance, Shipping allowance, Expenses for JICA study tours, etc.)

国別特設 フィリピン地方自治クラスター活性化セミナー：一村一品運動

趣 旨

大分県の一村一品運動による地域振興の経験とノウハウ、地域住民の活動等について研修を行い、フィリピンの地域開発を支援する。

期 間

2001年10月18日(木)～28日(日) 11日間

研修員

地方自治クラスタープロジェクトの対象地域の町長

- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | ジーザス・カバン・ミランダ (イサベラ州サンマリノ町長) | 58歳男 |
| 2 | ロアデス・コーピン・マドロナ (ロンブソン州サンアガスチン町長) | 41歳女 |
| 3 | ジューン・サマリスタ・モンデジャー (イロイロ州ニュールセナ町長) | 37歳男 |
| 4 | グレゴリオ・サルビラ・ピラリコ (イロイロ州サンミゲル町長) | 54歳男 |
- コーディネーター 佐藤都茂子

日 程

月 日	時 間	日 程	備 考
10/18 (木)	宿泊	北九州市～大分市 小田急センチュリー大分	Tel 097-536-2777
10/19 (金)	9:30-10:00	オリエンテーション(大分県国際交流センター)	Tel 097-538-5161 Tel 097-528-7700 Tel 097-536-2777
	10:00-11:30	大分県政の概要(大分県国際交流センター)	
	12:00-13:00	昼食(センター)	
	13:30-15:00	一村一品運動説明(大分県国際交流センター)	
	15:30-16:30	大分スポーツ公園メインスタジアム 小田急センチュリー大分	
10/20 (土)	8:00- 宿泊	一村一品ふれあい朝市(ガレリア竹町噴水広場) フリー ボストンホテル	
10/21 (日)	宿泊	フリー 小田急センチュリー大分	
10/22 (月)	8:15	ホテル発	Tel 0974-22-7050 Tel 0974-22-4236 Tel 0972-32-2155 Tel 097-536-2777
	9:30-11:00	大分県農水産物加工総合指導センター	
	11:10-12:15	きのこ研究指導センター	
	12:15-13:15	昼食(きのこセンター)	
	14:30-16:00	大分県海洋水産研究センター 小田急センチュリー大分	
10/23 (火)	10:15-10:40	大分県知事訪問	Tel 097-536-1111 Tel 0973-52-3151 Tel 097-536-2777
	12:00-13:00	昼食(木の花ガルトン)	
	13:30-16:00	大分大山町農業協同組合 小田急センチュリーホテル	
10/24 (水)	9:30	ホテル発	Tel 0977-28-7111 Tel 0978-42-5111 Tel 0978-42-5211
	10:30-11:30	大分農業文化公園	
	11:30-12:30	昼食	
	13:00-13:30	院内町長訪問	
	13:30-15:00	一村一品現地視察 小田急センチュリー大分	
10/25 (木)	9:30	ホテル発	Tel 0977-78-1000 Tel 0977-84-3111 Tel
	10:30-11:30	立命館アジア太平洋大学	
	11:30-12:30	昼食	
	13:00-15:30	湯布院町のまちづくり ボストンホテル	

月 日	時 間	日 程	備 考
10/26 (金)	8:45 9:30-10:30 10:45-11:30 12:00-13:00 15:00-16:30 16:30-17:00 18:00-19:30 宿泊	ホテル発 別府市竹細工伝統産業会館 大分県竹工芸・訓練支援センター 昼食 評価会(大分県国際交流センター) 閉講式(大分県国際交流センター) 送別会(小田急センチュリー大分3階藤の間) ボストンホテル	Tel. 0977-23-1072 Tel. 0977-22-0208 Tel. 097-538-5161 Tel. 097-536-2777
10/27 (土)	11:00 離県	ホテル発 福岡へ移動	
10/28 (日)		帰国	